

ヲ補訂ス

備局書記官ヲ、四等乃至八等ノ欄「鐵道事務官」ノ次ニ「臨時鐵道國有準備局事務官」ヲ加フ  
高等文官官等相當俸給表中「鐵道作業局部長」ノ次ニ「臨時鐵道國有準備局書記官」ヲ、「鐵道事  
務官」ノ次ニ「臨時鐵道國有準備局事務官」ヲ加フ

五月廿三日

臨時鐵道國有準備局事務官任用方ヲ定ム

臨時鐵道國有準備局事務官ノ任用ニ付テハ明治三十年勅令第三百五十八號ヲ準用ス

五月三十日

馬政局官制ヲ定ム

馬政局官制

第一條 馬政局ハ内閣總理大臣ノ管理ニ屬シ馬匹ノ改良蕃殖其ノ他馬政ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條 馬政局ニ左ノ職員ヲ置ク

- 馬政次長 勅任
- 馬政官 勅任又ハ奏任
- 書記官 奏任
- 種馬牧場長 奏任
- 種馬育成所長 奏任
- 種馬所長 奏任

技師

專任八人

屬

專任二十六人

書記

專任二十一人

技手

專任百十三人

判任

判任

第三條 馬政局ハ之ヲ東京ニ置ク

地方ニ種馬牧場、種馬育成所及種馬所ヲ置キ馬政局ノ事務ヲ分掌セシム

第四條 馬政次長ハ局務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

第五條 馬政長官ハ奏任官ノ進退ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ヲ行フ

第六條 馬政次長ハ馬政長官ヲ佐ケ局務ヲ整理ス

第七條 馬政官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ經營及監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 書記官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ掌ル

第九條 種馬牧場長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ種馬ノ蕃殖及飼料ノ耕作ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十條 種馬育成所長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ幼種馬ノ育成及調教並飼料ノ耕作ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條 種馬所長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ種馬ノ飼養管理及種付ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十二條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十三條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十四條 書記ハ種馬牧場、種馬育成所及種馬所ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十六條 種馬牧場ハ三箇所、種馬育成所ハ一箇所、種馬所ハ十五箇所トス

第十七條 種馬牧場、種馬育成所及種馬所ノ名稱位置並種馬所ノ管轄區域ハ内閣總理大臣之

本官制ハ廿九年四月十五日勅令第百三十九號ヲ以テ定ムル所

本令ハ二十五年十一月十二日勅令第九十六號ヲ以テ定ムル所

五月卅日

種馬牧場及種馬所官制並馬匹去勢法施行準備ニ關スル臨時職員ヲ廢ス

ヲ定ム  
附 則  
本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

種馬牧場及種馬所官制並明治三十五年勅令第百十三號ハ明治三十九年五月三十一日限り之ヲ廢止ス

五月卅日

高等官官等俸給令ヲ補訂ス

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス  
第九條中「農務局事務官」ヲ削リ内閣ノ部法制局ノ次ニ左ノ如ク加フ  
馬政局 年俸 五千圓  
馬政次長 年俸 一級 四千圓  
二級 三千五百圓  
三級 三千圓  
馬政官 技術官俸給令ニ依ル  
書記官 高等文官年俸第一號表ニ依ル

五月卅日

馬政局職員特別任用令

種馬牧場長 高等文官年俸第二號表ニ依ル  
種馬育成所長  
種馬所長  
文武高等官官等表中内閣ノ部一等ノ欄ニ「馬政次長」ヲ、一等乃至三等ノ欄ニ「馬政次長」ヲ、三等乃至七等ノ欄ニ「馬政官」ヲ、四等乃至八等ノ欄ニ「種馬育成所長」ヲ加ヘ「農商務省ノ部」農務局事務官」ヲ削ル  
高等文官官等相當俸給表中「法制局參事官」ノ次ニ「馬政局書記官」ヲ加ヘ「農務局事務官」ヲ削ル  
附 則  
本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

馬政局職員特別任用令

第一條 馬政次長ハ滿五年以上馬政官ノ職ニ在リ又ハ在リタル者ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得  
馬匹ニ關スル職務ニ從事シ現ニ勅任官又ハ宮内省勅任官ノ職ニ在ル者ハ當分ノ内馬政次長ニ任用スルコトヲ得  
第二條 馬政官ハ滿三年以上種馬牧場長、種馬育成所長、種馬所長若ハ馬政局技師ノ職ニ在リ若ハ在リタル者又ハ陸軍現役將校ニシテ滿三年以上軍馬補充部ノ部長若ハ部員ノ職ニ在リ若ハ在リタル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得  
第三條 種馬牧場長、種馬育成所長及種馬所長ハ馬匹ニ關スル技師タル資格ヲ有スル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス  
附 則

五月卅日  
馬政局高等官ノ官等ニ關スル件ヲ定ム

本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
馬政官ハ本令施行後二年間ヲ限り馬匹ニ關スル技師タルノ資格ヲ有スル者ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得  
文官任用令第六條ニ依リ任用セラレタル屬ニシテ現ニ馬匹ニ關スル職務ニ従事スル者ハ本令施行ノ際ニ限り馬政局屬又ハ馬政局書記ニ任用スルコトヲ得  
馬政局職員特別任用令第一條第二項、第二條、第三條又ハ附則ニ依リ宮内省高等官又ハ陸軍將校同相當官ヨリ馬政局高等官ニ任用セラルル者及任用セラレタル者ノ官等ニ付テハ高等文官轉任ノ例ヲ準用ス  
前項ノ官吏ハ明治三十六年勅令第二百八十五號ニ依ル特別文官トス  
附 則  
本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

五月卅日  
陸軍現役將校同相當官ニシテ馬政局職務ニ任セラレタル者ハ陸軍ニ於テ之ヲ定員外ト爲スコトヲ得  
前項ニ依リ定員外ト爲リタル者ニ對シテハ陸軍ニ在リテハ在職陸軍現役武官ニ關スル規定ヲ適用ス但シ給與ニ關スル規定ハ此ノ限ニ在ラス  
附 則  
本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

五月卅日  
馬政委員會官制ヲ定メ臨時馬制調査委員會官制ヲ廢ス

馬政委員會官制  
第一條 馬政委員會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ馬匹改良ニ關スル事項及其ノ施行方法ヲ審議ス  
第二條 馬政委員會ハ内閣總理大臣ノ諮詢ニ應ジテ意見ヲ開申ス  
第三條 委員ハ馬政次長、陸軍將官又ハ上長官二人及農商務省高等官一人ヲ以テ之ニ充ツ  
第四條 委員長ハ馬政長官ヲ以テ之ニ充テ馬政長官事故アルトキハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ委員中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス  
第五條 馬政委員會ニ書記二人ヲ置キ馬政局屬ヲ以テ之ニ充ツ  
書記ハ委員長ノ指揮ヲ承ク庶務ニ従事ス  
附 則  
本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス  
臨時馬制調査委員會官制ハ之ヲ廢止ス

五月卅日  
統監府及理事廳巡查ノ任用及給與方ヲ定ム

第一條 統監府及理事廳巡查ノ任用ニ關スル規定ハ統監之ヲ定ム  
第二條 統監府及理事廳巡查ノ俸給ニ付テハ巡查看守俸給令ヲ適用ス  
第三條 統監府及理事廳巡查ニハ月額二十五圓以内ノ在勤手当ヲ給ス  
在勤手当ハ任地ニ到着シタル翌日ヨリ之ヲ給ス  
帝國內滞在三箇月ニ及ヒタルトキハ其ノ以後在勤手当ヲ給セス  
第四條 統監府及理事廳巡查ニハ月額七圓以内ノ宿料ヲ給ス但シ官舎内ニ居住セシムルトキ

臨時馬制調査委員會官制ハ三十七年九月廿一日勅令第二百九號ヲ以テ定ムル所

本年十一月廿四日勅令第二百九十一號ヲ以テ補訂アリ

ハ此ノ限ニ在ラス  
 第五條 統監府及理事廳巡查ノ療治料、給助料及弔祭料ニ付テハ巡查看守療治料、給助料及弔祭料給與令ヲ適用ス  
 第六條 統監府及理事廳巡查ノ給與品及貸與品ニ付テハ統監之ヲ定ム  
 附 則  
 本令ハ明治三十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

六月一日(官報)

港灣調査會ヲ置ク

港灣調査會規則  
 第一條 港灣調査會ハ港灣ニ關スル制度其他重要ナル事項及重要港灣ノ計畫設備ニ關スル事項ヲ調査ス  
 第二條 港灣調査會ノ委員ハ内務省其他關係各省ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ニ充ツ  
 第三條 港灣調査會ニ幹事二人ヲ置キ内務省高等官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス  
 幹事ハ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス  
 第四條 港灣調査會ニ書記三人ヲ置キ内務省判任官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス  
 書記ハ委員長及幹事ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス  
 第五條 内務大臣ハ自ら委員長トナリ調査ニ關スル議事ヲ整理シ其議決ニ基キ成案ヲ定ム  
 委員長事故アルトキハ内務次官其事務ヲ代理ス

六月一日(官報)

東京府知事ヲシテ警察署長

東京府知事ハ其ノ主務ニ付テハ東京府下ノ警察署長、警察分署長ヲ指揮監督ス

警察分署長ヲ指揮監督セシム

六月一日(官報)  
 裁判所職員島嶼在勤者月手當給與細則ヲ補訂ス

明治三十三年司法省令第十三號中左ノ通り改正ス  
 島嶼在勤者月手當給與細則第一條中「琉球國宮古島、八重山島」ノ下ニ「久米島」ヲ加フ

六月五日(官報)

鐵道作業局官制ヲ補訂ス

鐵道作業局官制中左ノ通改正ス  
 第六條中「二十一」ヲ「二十四」ニ改ム  
 第六條ノ二中「十四」ヲ「十五」ニ改ム  
 第七條中「百人」ヲ「百四人」ニ改ム  
 第八條中「千九百九十四人」ヲ「千二百五十三人」ニ改ム  
 第十條中「五百八十二人」ヲ「六百六十四人」ニ改ム

六月七日(官報)

臨時橫濱港設備委

臨時橫濱港設備委員會官制  
 第一條 大藏省ニ臨時橫濱港設備委員會ヲ設ケ大藏大臣ノ監督ニ屬シ橫濱港設備ニ關スル事項ヲ審議セシム

本官制ハ三十年八月二日勅令第二百六十八號ヲ以テ定ムル所

員會官制ヲ定ム

- 第二條 臨時橫濱港設備委員會ハ委員長一人委員十六人ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 委員長ハ大藏次官ヲ以テ之ニ充テ委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一 内務省高等官二人大藏省高等官四人農商務省高等官一人遞信省高等官三人
  - 二 橫濱市長橫濱市會議長橫濱商業會議所會頭
  - 三 橫濱市公民中ヨリ橫濱市會ニ於テ選舉シタル者二人橫濱商業會議所ニ於テ選舉シタル者一人
- 前項第一號ノ委員ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第四條 委員長ハ議事ヲ整理シ其ノ決議ヲ大藏大臣ニ具申ス
- 委員長事故アルトキハ委員中首班ノ高等官ヲシテ事務ヲ代理セシム
- 第五條 臨時橫濱港設備委員會ニ幹事一人ヲ置ク
- 幹事ハ大藏省高等官ヲ以テ之ニ充テ委員長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 幹事ハ大藏大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第六條 臨時橫濱港設備委員會ニ書記二人ヲ置キ大藏屬ヲ以テ之ニ充ツ
- 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第七條 書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 第三條第二號及第三號ノ委員ニハ五圓以内ノ日當ヲ給スルコトヲ得

陸軍編修官官制ヲ改ム

- 第一條 陸軍ニ於ケル圖書ノ編纂及翻譯ニ従事セシムル爲陸軍編修官ヲ置ク
- 第二條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス
- 第三條 陸軍編修ハ委任、陸軍編修書記ハ判任トス

陸軍編修官官制

第四條 陸軍編修及陸軍編修書記ハ各上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

高等官官等俸給令ヲ補訂ス

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス  
文武高等官官等表中陸軍省ノ部四等ノ欄「陸軍教授」ノ次ニ「陸軍編修」ヲ加フ  
高等文官官等相當俸給表中「陸軍編修」ヲ削ル

陸軍所屬特別文官俸給令ヲ補訂ス

陸軍所屬特別文官俸給令中左ノ通改正ス  
第一表中「陸軍編修」ヲ削リ陸軍教授ノ區畫ノ次ニ左ノ如ク加フ

陸軍編修	三千圓	四千圓	五千圓	六千圓	七千圓	八千圓	九千圓	一萬圓
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

海軍給與令ヲ補訂ス

海軍給與令中左ノ通改正ス  
第三表ヲ左ノ如ク改ム

外國在勤加俸表

附給使公及附給使大		英露米佛		國澳伊		額
將	官	八千百圓	七千七百圓	三千七百圓	三千七百圓	
上長	官	六千四百圓	五千九百圓	二千七百圓	二千七百圓	
士	官	五千五百圓	五千百圓	二千四百圓	二千四百圓	

舊官制ハ二十三年六月三日勅令第八十九號ヲ以テ定ムル所

本令ハ二十五年十一月十二日勅令第九十六號ヲ以テ定ムル所

本令ハ三十二年七月四日勅令第三百二十五號ヲ以テ改ムル所

本令ハ三十七年一月二十一日勅令第六號ヲ以テ定ムル所

臨時陸軍檢疫部條例  
例ハ三十七年六月三十日勅令第百八十四號ヲ以テ定ムル所

六月十二日勅令

臨時陸軍似島檢疫所條例ヲ定メ臨時陸軍檢疫部條例ヲ廢ス

臨時陸軍似島檢疫所條例

- 第一條 臨時陸軍似島檢疫所ハ清國、韓國及臺灣ヨリ歸還スル陸軍所轄ノ船舶及之ニ搭載スル人馬物件ニ對シ檢疫消毒ヲ施行ス
- 第二條 臨時陸軍似島檢疫所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 所長
  - 主計員
  - 下士
- 第三條 所長ハ陸軍運輸部本部長ニ隸シ檢疫所ノ事務ヲ管理ス
- 第四條 所員及主計ハ所長ノ命ヲ承ケ檢疫所ノ事務ヲ分掌ス
- 第五條 下士ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

附則

本令ハ明治三十九年六月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
臨時陸軍檢疫部條例ハ之ヲ廢止ス

六月十二日勅令

帝國學士院規程

帝國學士院規程

第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス

東京學士會院規程  
ハ二十三年十月廿四日勅令第百六十四號、同補則ハ二十八年三月二日勅令第十七號ヲ以テ定ムル所

院規程ヲ定メ東京學士會院規程及同補則ヲ廢ス

- 第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス
- 第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得
- 第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分チ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス
  - 第一部 文學及社會的諸學科
  - 第二部 理學及其ノ應用諸學科
- 第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ六十人トス
- 第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス  
會議ハ總會及部會トス
- 第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス
- 第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文、考案、資料等ヲ募集スルコトヲ得
- 第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得
- 第十條 文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得
- 第十一條 帝國學士院ハ少クとも毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ
- 第十二條 帝國學士院ニ院長一人、幹事一人及部長二人ヲ置ク  
院長及幹事ハ總會ニ於テ、部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第十三條 院長、幹事及部長ノ任期ハ三年トス
- 第十四條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル

六月十四日(官報)  
陸軍軍制

院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理ス  
 幹事ハ院長ノ指揮ヲ承ケ院務ヲ掌理ス  
 部長ハ院長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長トナル  
 第十四條 院長、幹事及部長ニハ手當ヲ給スルコトヲ得  
 第十五條 滿六十歳以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得  
 第十六條 帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部省所屬ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツ  
 書記ハ院長、幹事及部長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス  
 書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得  
 第十七條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ手當ヲ給スルコトヲ得  
 第十八條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ得  
 附 則  
 第十九條 東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢止ス  
 第二十條 本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員  
 及客員タル者トス  
 第二十一條 東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受クル者ハ本令施行ノ後仍同額ノ年金  
 ヲ受ク  
 第二十二條 本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於  
 テ、幹事及部長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院幹事ニ於テ其ノ職務ヲ行フヘシ  
 陸軍大將男爵西寛二郎ニ陸軍軍制調査委員長ヲ仰付ラル

調査委員  
ヲ置ク

六月十五日(官報)  
韓國政府  
ニ聘用セ  
ラル、者  
ノ統監府  
職員ニ轉  
任兼任方  
ヲ定ム

韓國政府ニ聘用セラレタル官吏及待遇官吏ハ聘用ノ儘統監府又ハ其ノ所屬官署ノ奏任以下ノ  
 職員ニ限リ轉任又ハ兼任セシムルコトヲ得現ニ統監府又ハ其ノ所屬官署ノ職員ニシテ韓國政  
 府ニ聘用セラレタル者亦同シ  
 前項ノ場合ニ於テハ聘用ヲ了ル迄臨時其ノ轉任又ハ兼任ノ官職ヲ増置セラレタルモノトシ明  
 治三十七年勅令第九十五號第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス  
 韓國政府ノ聘用ニ應セムトスル者ヲ聘用ニ關スル手續中ニ於テ統監府又ハ其ノ所屬官署ノ職  
 員ニ任命スル場合亦前項ニ同シ

六月十五日(官報)

統監府及  
理事廳巡  
査任用規  
則ヲ定ム

統監府及理事廳巡查任用規則  
 第一條 統監府及理事廳巡查ハ身體検査及學術試験ニ合格シタル者ヨリ之ヲ任用ス  
 第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ學術試験ヲ要セス之ヲ巡查ニ任用スルコトヲ得  
 一 文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者  
 二 會テ判任官以上ノ職ヲ奉シタル者  
 三 巡查精勤證書ヲ有スル者  
 四 會テ巡查ノ職ヲ奉シ退職後滿三箇年ヲ經過セサル者  
 五 下士適任證ヲ有スル陸海軍兵卒  
 六 特種ノ技能ヲ有スル者  
 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ巡查ニ任用スルコトヲ得ス

- 一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者
- 四 在留禁止處分ヲ受ケ滿五箇年ヲ經過セサル者
- 五 文官懲戒令又ハ巡查懲罰例ニ依リ官職ヲ免セラレ滿二箇年ヲ經過セサル者
- 六 精神上ノ疾患アル者
- 七 徵兵ニ相當スル者
- 八 年齡二十年未滿及四十五年以上ノ者
- 第四條 身體検査ハ左ニ掲クル標準ニ依リ之ヲ行フ
  - 一 體格善良ニシテ姿勢容貌醜惡ナラス四肢完具シ全身機關ノ機能健全ニシテ險難ニ堪ヘ得ヘキ者
  - 二 身幹五尺以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者
  - 三 視聽力ノ完全ナル者
  - 四 發聲力ノ充分ナル者
  - 五 皮膚病其ノ他嫌惡スヘキ疾患ナキ者
- 第五條 學術試験ハ身體検査ニ合格シタル者ニ就キ之ヲ行フ
- 第六條 學術試験ヲ分チテ筆記及口述トシ筆記試験ニ合格シタル者ニ就キ口述試験ヲ行フ
  - 一 警察法規ノ大要
  - 二 刑法及刑事訴訟法ノ大要

<p>本規則ハ三十二年五月十一日海軍省連第八十六號ヲ以テ定ムル所</p>	<p>六月廿日 海軍警査及海軍監獄看守採用規則ヲ補訂ス</p>	<p>三 歴史及地理(本邦及韓國)ノ大要 四 作文及筆蹟 五 算術(加減乗除) 第七條 逡査ニ任用セムトスルトキハ豫メ別紙様式ニ依ル誓書ヲ徴スヘシ 〔別紙略ス〕</p>	<p>六月廿日 千住製絨所官制ヲ補訂ス</p>	<p>海軍警査及海軍監獄看守採用規則中左ノ通り改ム</p> <p>第二條 海軍警査及海軍監獄看守採用試験ハ鎮守府司令長官(東京ニ在テハ海軍省司法局長)其ノ部下ノ海軍警査及海軍監獄看守採用試験委員ヲシテ之ヲ行ハシム</p> <p>鎮守府司令長官ハ他ノ鎮守府司令長官ニ採用試験ヲ囑托スルコトヲ得</p> <p>第三條 海軍警査及監獄看守採用試験委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織シ鎮守府司令長官(東京ニ在テハ海軍省司法局長)其ノ部下ノ高等官及判任官中ヨリ之ヲ命ス</p> <p>第八條第一號中「現役ヲ退キタル」ノ下ニ「海陸軍准士官」ヲ加フ</p> <p>第八條ノ二第一號中「現役ヲ退キタル」ノ下ニ「海陸軍准士官」ヲ加フ</p>	<p>六月廿五日 統監府及</p>	<p>千住製絨所官制中左ノ通改正ス</p> <p>第二條中「八人」ヲ「十二人」ニ、「十二人」ヲ「十五人」ニ改ム</p> <p>統監府及理事廳職員給與令中左ノ通改正ス</p> <p>第二條中「其ノ他ノ高等文官ニ付テハ奏任文官本俸表ニ依ル」ヲ「統監府祕書官、統監府書記</p>
--------------------------------------	-------------------------------------	--	-----------------------------	---	-----------------------	--



本令ハ三十八年十二月廿日勅令第二百七十三號ヲ以テ定ムル所

理事廳職員給與令ヲ補訂ス

官、統監府警視及理事廳理事官ハ奏任文官本俸第一號表、統監府通譯官及理事廳副理事官ハ奏任文官本俸第二號表、理事廳警視ハ奏任文官本俸第三號表ニ依ルニ改ム別表ヲ左ノ如ク改ム

奏任文官本俸第一號表

官		三 等	四 等	五 等	六 等	七 等
俸 給		二千八百圓	二千四百圓	二千圓	千六百圓	千二百圓
級一	級二	二千六百圓	二千二百圓	千八百圓	千四百圓	千圓

奏任文官本俸第二號表

官		四 等	五 等	六 等	七 等	八 等
俸 給		二千二百圓	千八百圓	千四百圓	千圓	八百圓
級一	級二	二千圓	千六百圓	千二百圓	九百圓	七百圓

奏任文官本俸第三號表

官		五 等	六 等	七 等	八 等
俸 給		千六百圓	千二百圓	九百圓	七百圓
級一	級二	千四百圓	千圓	八百圓	六百圓

附 則

本令施行ノ際奏任文官本俸表ニ依リ現ニ受クル本俸額本令ニ依リ受クヘキ本俸額ヨリ多額ナルトキハ同一額ニ達スル迄其ノ額ヲ給ス

本令ハ三十八年十二月二十日勅令第二百七十四號ヲ以テ定ムル所

統監府通信官署職員官等給與令ヲ補訂ス

統監府通信官署職員官等給與令中左ノ通改正ス  
第二條第二項中「統監府通信管理局事務官、通信事務官及通信事務官補ニ付テハ統監府及理事廳職員給與令中奏任文官本俸表ヲ準用ス」ヲ「統監府通信管理局事務官及通信事務官ニ付テハ統監府及理事廳職員給與令中奏任文官本俸第二號表、通信事務官補ニ付テハ同第三號表ヲ準用ス但シ高等官三等ニ叙セラレタル事務官ニハ二千五百圓ヲ給ス」ニ改ム  
附 則  
本令施行ノ際現ニ受クル本俸額本令ニ依リ受クヘキ本俸額ヨリ多額ナルトキハ同一額ニ達スル迄其ノ額ヲ給ス

六月廿五日 勅令

統監府法務院官制ヲ定ム

統監府法務院官制  
第一條 統監府ニ法務院ヲ置ク  
第二條 統監府法務院ハ統監ノ管理ニ屬シ韓國ニ於ケル司法事務ヲ掌ル  
第三條 統監府法務院ニ左ノ職員ヲ置ク  
院長  
評定官 專任 四人 奏任 内一人ヲ勅任トス  
檢察官 專任 一人 奏任  
書記 專任 五人 判任  
第四條 法務院長ハ勅任評定官ヲ以テ之ニ充ツ統監ニ屬シ院務ヲ總理ス  
第五條 法務院長ハ司法事務ニ關シテハ理事官ヲ指揮監督ス  
第六條 評定官ハ司法事務ヲ管掌ス  
第七條 法務院長事故アルトキハ上席ノ評定官臨時其ノ職務ヲ代理ス  
檢察官ハ法務院長ノ命ヲ承ケ檢察及監獄ニ關スル事務ヲ掌ル

六月廿五日

統監府法務院職員官等給與令ヲ定ム

第八條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ院務ニ從事ス  
附 則  
本令ハ明治三十九年六月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

統監府法務院職員官等給與令

- 第一條 統監府法務院高等官ノ官等ハ法務院長タル評定官ハ二等其ノ他ノ評定官及檢察官ハ三等乃至六等トス
- 第二條 統監府法務院職員ニハ本俸及在勤俸ヲ給ス  
本俸ノ年額ハ法務院長ハ一級三千五百圓二級三千圓トシ其ノ他ノ高等官ニ付テハ統監府及理事廳職員給與令中奏任文官本俸第二號表ヲ準用ス但シ高等官三等ニ叙セラレタル者ニハ二千五百圓ヲ給ス  
在勤俸ニ關シテハ統監府及理事廳職員給與令ノ規定ヲ準用ス
- 第三條 統監府及理事廳職員給與令第七條ノ規定ハ統監府法務院職員ニ之ヲ準用ス
- 第四條 本令ニ規定セサルモノハ高等官官等俸給令ニ依ル

附 則

本令ハ明治三十九年六月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

六月廿五日

韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律

- 第一條 理事廳ハ其ノ管轄區域内ニ於ケル訴訟事件ノ始審及非訟事件ノ事務ヲ行フ
- 第二條 統監ハ一ノ理事廳ノ管轄ニ屬スル裁判事務ノ一部ヲ他ノ理事廳ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得
- 第三條 理事廳ハ理事官又ハ副理事官單獨ニ審問裁判ス
- 第四條 統監府法務院ハ終審トシテ理事廳ノ裁判ニ對スル上訴ヲ管轄ス

スル法律ヲ定ム

- 第五條 統監府法務院ハ評定官三人ヲ以テ組織シタル部ニ於テ審問裁判ス  
評定官中上席ノ者ヲ以テ裁判長トス
- 第六條 五年以上判事、檢事、帝國大學法科大學教授、理事官、副理事官又ハ辯護士タル者ニ非サレハ評定官又ハ檢察官タルコトヲ得ス
- 第七條 理事官ハ理事廳職員ヲシテ其ノ應ノ檢察事務ニ付檢事ノ事ヲ行ハシム
- 第八條 統監府法務院ノ檢察事務ハ檢察官之ヲ行フ但シ檢察官事故アルトキハ法務院長ハ評定官中ノ一人ヲシテ之ヲ代理セシム
- 第九條 裁判所構成法中法律上ノ共助ニ關スル規定ハ理事廳及統監府法務院ト裁判所トノ間、裁判所及臺灣總督府法院共助法ノ規定ハ理事廳及統監府法務院ト臺灣總督府法院トノ間ニ於ケル法律上ノ共助ニ之ヲ準用ス  
外國裁判所ノ囑託ニ因ル共助法ノ規定ハ外國裁判所ノ囑託ニ因リ理事廳及統監府法務院ニ於テ行フ法律上ノ補助ニ之ヲ準用ス
- 第十條 本法ニ規定アルモノノ外裁判事務ニ關シ韓國ニ於テ適用スル法律ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
本法施行前受理シタル訴訟事件及非訟事件ニ關シテハ總テ從前ノ例ニ依ル

○六月二十五日

明治三十九年法律第五十六號ハ明治三十九年六月二十七日ヨリ之ヲ施行ス

六月廿六日  
在外公館

本令ハ三十二年六月十九日勅令第二百八十一號ヲ以テ定ムル所

本條例ハ二十六年十月三十日勅令第二百七十一號ヲ以テ定ムル所

本規則ハ二十五年二月二日勅令第十四號ヲ以テ定ムル所

職員定員令ヲ補訂ス

在外公館職員定員令中左ノ通改正ス  
第一條中「二十八人」ヲ「四十三人」ニ改ム

六月廿六日勅令  
在外公館費用條例ヲ補訂ス

在外公館費用條例中左ノ通改正ス  
第二十五條 旅行ノ場所及其ノ性質ニ依リ外務大臣ニ於テ必要ト認メタルトキハ滞在中日當ノ定額ヲ減少シ又ハ之ヲ給セサルコトヲ得

六月廿六日勅令  
外國在勤警部巡查任用及支給規則ヲ補訂ス

外國在勤警部巡查任用及支給規則中左ノ通改正ス  
第十一條中左ノ如ク改ム  
三 旅行ノ場所及其ノ性質ニ依リ外務大臣ニ於テ必要ト認メタルトキハ滞在中日當ノ定額ヲ減少シ又ハ之ヲ給セサルコトヲ得

六月廿六日勅令  
屠畜取締職員ヲ置ク

第一條 屠畜取締ノ爲廳府縣(東京府ヲ除ク)ニ屠畜検査技師又ハ屠畜検査技手ヲ置ク  
第二條 地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ前條職員ノ員數ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受ク  
第三條 屠畜検査技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク  
屠畜検査技師ノ任免奏薦及宣行ハ高等官官等俸給令第四條第五條ノ例ニ依リ之ヲ行フ  
第四條 屠畜検査技手ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク  
屠畜検査技手ノ任免ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)之ヲ行フ

本官制ハ三十二年六月二十三日勅令第三百七號ヲ以テ改ムル所

六月廿六日勅令  
製鐵所官制ヲ補訂ス

製鐵所官制中左ノ通改正ス  
第二條中「二十八人」ヲ「二十九人」ニ、「五十人」ヲ「五十八人」ニ、「八十人」ヲ「百五人」ニ改ム

第五條 屠畜検査技師屠畜検査技手ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス但シ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ  
附 則  
本令ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(別表)

屠畜検査技師官等配當表	
奏任	
五等	年俸 千四百圓以上
六等	年俸 千二百圓以上 千四百圓未満
七等	年俸 八百圓以上 千二百圓未満
八等	年俸 六百圓以上 八百圓未満
屠畜検査技手等級配當表	
判任	
一等	月俸 六十圓以上
二等	月俸 四十五圓以上 六十圓未満
三等	月俸 三十五圓以上 四十五圓未満
四等	月俸 二十五圓以上 三十五圓未満
五等	月俸 二十五圓未満

明治三十九年六月二十六日至二十八日

七十二

六月廿六日<sup>五七</sup>  
內國官憲ノ管掌事  
項ニ付統  
監ノ職權  
ニ關スル  
法律ヲ定  
ム

六月廿六日<sup>五七</sup>  
韓國ニ關スル事項ニシテ法律ノ規定ニ依リ內國官憲ノ管掌ニ屬スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ統  
監ノ職權ニ屬セシムルコトヲ得  
○六月廿六日<sup>六七</sup>  
居留民團法、清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法、戶籍法、在外指定學校職員退職料及遺族扶  
助料法、外國領海水産組合法、郵便法、電信法及電信線電話線建設條例中各省大臣ノ管掌ニ  
屬スル事項ニシテ韓國ニ關スルモノハ統監之ヲ行フ  
附 則  
本令ハ明治三十九年法律第五十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

六月廿八日<sup>五七</sup>  
陸軍大學  
校條例ヲ  
補訂ス

六月廿八日<sup>五七</sup>  
陸軍大學校條例中左ノ通改正ス  
第三條第六條及第七條中「副監督」ヲ「主計」ニ改ム  
第十一條中「試驗科目並」ノ下ニ「初審」ヲ加フ  
第十二條 削除  
第十三條「第十二條」ニ改ム  
第十三條 參謀總長ハ候補者ノ學力ヲ檢定スル爲試驗委員ヲ設ケ校長ヲ委員長ト爲シ左ノ試  
驗ヲ行ハシム  
一 初審試驗  
二 再審試驗  
第十四條 初審試驗ハ候補者ノ學識ヲ檢定スルモノニシテ各師管毎ニ當該師團長<sup>教育總監所管</sup>  
<sup>育總監、近衛師團ニ於ケル候補者ハ近衛師團長、滿洲及韓國ニ在リテハ守備管區毎ニ當該</sup>  
<sup>各師團長、臺灣ニ在リテハ同上各旅團長、北清及樺太ニ在リテハ當該各司令官以下同シ</sup>ノ定ムル場所ニ管內候  
補者ヲ集メ參謀長若ハ參謀<sup>參謀アラサル</sup>ノ監視下ニ於テ各地同時ニ筆記試驗ヲ行フ之カ爲參

本條例ハ三十六年  
三月三十一日勅令  
第七十一號ヲ以テ  
改ムル所

六月廿九日<sup>七六</sup>  
統監府鐵  
道管理局  
官制ヲ定  
ム

六月廿九日<sup>七六</sup>  
統監府鐵道管理局官制  
第一條 統監府鐵道管理局ハ統監ノ管理ニ屬シ韓國ニ於ケル鐵道ノ建設、改良、保存、運輸  
及附帶ノ業務ヲ掌ル  
第二條 統監府鐵道管理局ニ左ノ職員ヲ置ク  
長官 一人 勅任  
事務官 專任八人 奏任  
事務官補 專任五人 奏任  
技師 專任十四人 內二人ヲ勅任ト  
爲スコトヲ得  
通譯官 專任一人 奏任  
書記 專任百四十五人 判任  
技手 專任六十五人

謀總長ハ試驗委員長ヲシテ試驗問題及受験者名簿ヲ毎年二月中ニ當該各師團長ニ送付セシ  
ム  
初審試驗終レハ當該各師團長ハ解答書類ヲ纏メ直ニ試驗委員長ニ送付シ試驗委員長ハ委員  
ヲシテ其ノ成績ヲ調査セシメ順次名簿ヲ製シテ參謀總長ニ進達ス  
第十五條 再審試驗ハ候補者ノ學力活用ヲ檢定スルモノニシテ陸軍大學校ニ於テ之ヲ行フ  
參謀總長ハ試驗委員長ノ進達セシ順次名簿ニ據リ受験人名ヲ定メ陸軍大臣ニ移ス陸軍大臣  
ハ各所管長官ヲシテ其ノ受験者ヲ十一月十二日マテニ陸軍大學校ニ派遣セシム  
第十六條 削除  
第十七條「第十六條」ニ改メ以下順次繰上ク

明治三十九年六月二十九日

七十二

<p>六月廿九日 統監府鐵道管理局</p>	<p>通譯生 專任二人 判任</p> <p>第三條 長官ハ統監ノ命ヲ受ケ局務ヲ掌理ス</p> <p>第四條 長官ハ韓國駐劄軍司令官ノ要求ニ應シ軍事輸送其ノ他軍事上所要ノ設備ヲ爲スヘシ</p> <p>第五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル</p> <p>第六條 事務官補ハ上官ノ命ヲ承ケ事務官ノ事務ヲ助ク</p> <p>第七條 技師ハ上官ノ命ヲ受ケ技術ヲ掌ル</p> <p>第八條 通譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ文書翻譯及通譯ヲ掌ル</p> <p>第九條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス</p> <p>第十條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス</p> <p>第十一條 通譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ文書翻譯及通譯ニ従事ス</p> <p>第十二條 統監府鐵道管理局ニ左ノ三部ヲ置キ事務官又ハ技師ヲ以テ部長ニ充テ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理セシム</p> <p>總務部</p> <p>工務部</p> <p>運輸部</p> <p>各部事務ノ分掌ハ統監之ヲ定ム</p> <p>第十三條 統監ハ必要ニ應シ地方ニ事務所ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得</p>
---------------------------	---

<p>六月廿九日 統監府鐵道管理局</p>	<p>職員官等 給與令ヲ定ム</p> <p>第二條 統監府鐵道管理局職員ニハ本俸及在勤俸ヲ給ス</p> <p>本俸ノ年額ハ長官ハ一級四千圓二級三千五百圓三級三千圓トシ事務官ニ付テハ統監府及理事應職員給與令中奏任文官本俸第二號表、事務官補及通譯官ニ付テハ同第三號表ヲ準用ス但シ高等官三等ニ敍セラレタル事務官ニハ二千五百圓ヲ給ス</p> <p>在勤俸ニ關シテハ統監府及理事應職員給與令ノ規定ヲ準用ス</p> <p>第三條 統監府及理事應職員給與令第七條ノ規定ハ統監府鐵道管理局職員ニ之ヲ準用ス</p> <p>第四條 本令ニ規定セサルモノハ高等官官等俸給令ニ依ル</p> <p>統監府鐵道管理局職員特別任用令</p> <p>第一條 統監府鐵道管理局事務官補ハ滿三年以上鐵道ニ關スル判任官ノ職ニ在リタル者ヨリ文官高等官試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得</p> <p>第二條 統監府鐵道管理局書記ハ統監ノ定ムル試驗規則ニ依リ之ヲ任用スルコトヲ得</p> <p>第三條 統監府鐵道管理局通譯官及通譯生ノ任用ニ關シテハ統監府及理事應職員特別任用令第二條及第五條ノ規定ヲ準用ス</p> <p>附 則</p> <p>第四條 統監府鐵道管理局長官ハ技術官タルノ資格ヲ有スル者ヨリ文官高等官試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得</p> <p>第五條 統監府鐵道管理局事務官及事務官補ハ現ニ鐵道事務官若ハ鐵道事務官補ノ職ニ在ル者、現ニ韓國ニ於ケル鐵道ノ高等事務員タル者又ハ滿三年以上鐵道ノ事務ニ従事スル者ヨリ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得</p> <p>第六條 統監府鐵道管理局書記ハ現ニ鐵道書記若ハ鐵道書記補ノ職ニ在ル者、現ニ韓國ニ於</p>
---------------------------	---

本年十一月二十日  
勅令第二百八十六  
號ヲ以テ補訂アリ

六月廿九日  
統監府鐵  
道管理局  
職員官等  
ノ初級及  
陸絛方ヲ  
定ム

ケル鐵道ノ事務員タル者又ハ滿二年以上鐵道ノ事務ニ從事スル者ヨリ文官普通試驗委員ノ  
銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得  
第七條 前三條ノ規定ハ本令施行後一年ヲ經過シタルトキハ其ノ効力ヲ失フ  
第八條 京釜鐵道株式會社ノ清算事務ニ從事スル者ハ鐵道ノ事務ニ從事スル者ト看做シ第五  
條及第六條ノ規定ニ準シ統監府鐵道管理局職員ニ任用スルコトヲ得

六月廿九日  
統監府鐵  
道管理局  
職員官等  
ノ初級及  
陸絛方ヲ  
定ム

私設鐵道ノ事務ニ從事スル者ヲ統監府鐵道管理局ノ委任文官ニ任用スル場合ニ於テハ本令施  
行後一年ヲ限リ高等官官等俸給令第七條ノ規定ヲ適用セス

本官制ハ三十二年  
十一月七日勅令第  
四百廿六號ヲ以テ  
定ムル所

七月十日  
臺灣總督  
府鐵道部  
官制ヲ補

臺灣總督府鐵道部官制中左ノ通改正ス  
第二條中「專任百五十人」ヲ「專任二百三十人」ニ改ム

本令ハ三十五年三  
月廿七日勅令第九  
十九號ヲ以テ定ム  
ル所

訂ス  
七月十一日  
文部省直  
轄諸學校  
職員定員  
令ヲ補訂  
ス

文部省直轄諸學校職員定員令中左ノ通改正ス  
山口高等商業學校ノ部教授ノ欄「十八人」ヲ「十人」ニ改ム  
附 則  
本令ハ明治三十九年七月三十一日ヨリ之ヲ施行ス

七月十二日  
神宮司廳  
職員ト神  
部署職員  
トノ間ノ  
轉任方ヲ  
定ム

第一條 神宮司廳職員ヲ神部署職員ニ任用シ又ハ神部署職員ヲ神宮司廳職員ニ任用スル場合  
ハ轉任ト看做シ其ノ手續ハ轉任ノ例ニ依ル  
第二條 前條ノ神宮司廳職員ト稱スルハ神宮司廳官制第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ神部署職員  
ト稱スルハ神部署官制第二條ニ該當スル者ヲ謂フ

本年十二月十二日  
委員ヲ免ス

七月十三日  
南滿洲鐵  
道株式會  
社設立委  
員ヲ置ク

陸軍大將子爵兒玉源太郎ニ南滿洲鐵道株式會社設立委員長ヲ、法制局長官法學博士岡野敬次  
郎外七十八名ニ同委員ヲ仰付ラル

七月十七日

郡區長任用令ヲ刪訂ス

七月十九日

在外國郵便及電信局官吏手當給與細則ヲ補訂シ郵便局職員ニ改ム

明治二十三年勅令第九號中第二條ヲ削ル

明治三十四年四遞信省令第十九號中左ノ通改正シ來八月一日ヨリ之ヲ施行ス

- 一「郵便及電信局官吏」トアルヲ「郵便局職員」ト改ム
- 一第一條第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
臨時雇員ニハ在勤手當ヲ給セス
- 一第二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
雇員退職及死亡ノ場合亦前二項ニ依ル
- 一第九條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ  
但雇員ニ在リテハ病氣ノ爲メ執務セサルコト六十日ヲ踰ユルモノ又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユルモノハ在勤手當ヲ給セス
- 一第一號表ヲ左ノ通改ム

在勤手當給與年額表

任 所	局 長		通信技手	通信手	雇 員
	奏任官	列任官			
芝 罘	一、四四〇	八四〇	五九〇	三六〇	一五〇
天 津	一、四四〇	九六〇	六〇〇	三九〇	一六二
上 海	一、四四〇	九六〇	六〇〇	三九〇	一六二
北 京	一、四四〇	九六〇	六〇〇	三九〇	一六二
杭 州	一、〇八〇	七八〇	五四〇	三六〇	一五〇
沙 市	一、〇八〇	七八〇	五七〇	三七五	一五六
厦 門	一、〇八〇	八四〇	五七〇	三七五	一五六
漢 口	一、〇八〇	八四〇	五七〇	三七五	一五六
福 州	一、〇八〇	八四〇	五七〇	三七五	一五六
牛 莊	一、〇八〇	八四〇	五七〇	三七五	一五六
南 京	一、〇八〇	七八〇	五四〇	三六〇	一五〇
汕 頭	一、〇八〇	八四〇	五七〇	三七五	一五六
長 沙	一、〇八〇	七八〇	五七〇	三七五	一五六

出張所ニ在勤スル者ニ給スル在勤手當ハ其本局在勤者ニ給スル手當額ニ依リ出張所長ノ職ニ在ル者ニ限リ其ノ十分ノ三ヲ増給ス但特ニ指定シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一第二號表ヲ左ノ通改ム 一時手當給與額表

區 別	奏 任	列 任		
		通信技手	通信手	雇 員
韓國ヨリ清國へ赴任ノモノ	一、五〇〇	九〇〇	六〇〇	三〇〇
清國內各地間轉任轉勤ノモノ	一、二〇〇	七〇〇	五〇〇	二五〇
歸 朝 ノ モ ノ	八〇〇	五〇〇	三〇〇	一五〇

本局及其所在地出張所ト本局所在地以外出張所トノ間又ハ本局所在地外各出張所ノ間ニ交互轉任轉勤スル者ニ給スル一時手當ハ清國內各地間轉任轉勤ノモノニ給スル手當額ノ十分ノ三トス

本官制ハ廿二年七月廿三日宮内省達第十號ヲ以テ改ムル所

七月十九日 宮内省官制ヲ補訂ス

宮内省官制第三十四條中御料局理事「四人」ヲ「五人」ニ改メ明治三十九年八月一日ヨリ施行ス

七月廿六日 統監府鐵道管理局ニ臨時鐵道建設部ヲ置キ左ノ職員ヲ增置ス

事務官 專任 六人  
事務官補 專任 七人  
技師 專任 三十人  
通譯官 專任 三人  
書記 專任 百五十一人  
技手 專任 百七人  
通譯生 專任 六人

韓國ニ於ケル京義線及馬山線ノ建設及改良ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲統監府鐵道管理局ニ臨時鐵道建設部ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充テ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理セシム

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月廿七日 地方高等官俸給令ヲ補訂ス

地方高等官俸給令中左ノ通改正ス  
第二條 東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣、長崎縣、新潟縣、愛知縣、宮城縣、福岡縣、熊本縣、千葉縣、静岡縣、青森縣、石川縣、山口縣、香川縣、鹿兒島縣及愛媛縣ノ知事及事務官ハ別ニ左表ノ加俸ヲ受ク

府	縣	官名	知事	第一部長	其ノ他														
東京府	京都府	大阪府	神奈川縣	兵庫縣	長崎縣	新潟縣	愛知縣	宮城縣	福岡縣	熊本縣	千葉縣	静岡縣	青森縣	石川縣	山口縣	香川縣	鹿兒島縣	愛媛縣	
			六	五	三	四	四	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
			百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百
			圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓

本官制ハ三十一年十月二十二日勅令第二百五十八號ヲ以テ改ムル所

七月卅一日 外務省官制ヲ補訂ス

外務省官制第三條中「六人」ヲ「七人」ニ、第八條中「四十七人」ヲ「五十二」人ニ改ム

七月卅一日 關東都督府官制ヲ定ム

- 關東都督府官制
- 第一條 關東州ニ關東都督府ヲ置ク
  - 第二條 關東都督府ニ關東都督ヲ置ク
  - 都督ハ關東州ヲ管轄シ並南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ保護及取締ノ事ヲ掌ル
  - 都督ハ南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス
  - 第三條 都督ハ親任トス陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ充ツ
  - 第四條 都督ハ部下軍隊ヲ統率シ外務大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス
  - 第五條 都督ハ特別ノ委任ニ依リ清國地方官憲トノ交渉事務ヲ掌理ス
  - 第六條 都督ハ軍政及陸軍軍人軍屬ノ人事ニ關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ參謀總長、軍隊教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ承ク
  - 第七條 都督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ都督府令ヲ發シ之ニ禁錮一年以下又ハ罰金二



百圓以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得  
 第八條 都督ハ安寧秩序ヲ保持スル爲臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ前條ノ制限ヲ超ユル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得  
 前項ニ依リ發シタル命令ハ發布後直ニ外務大臣ヲ經由シテ勅裁ヲ請フヘシ若シ勅裁ヲ得サルトキハ都督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ効力ナキコトヲ公布スヘシ  
 第九條 都督ハ其ノ管轄區域内ノ防備ノ事ヲ掌ル  
 第十條 都督ハ其ノ管轄區域内ノ安寧秩序ヲ保持シ又ハ鐵道線路ノ保護及取締ヲ行フ爲必要ト認ムルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テハ直ニ外務大臣、陸軍大臣及參謀總長ニ之ヲ報告スヘシ  
 第十一條 都督ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得  
 第十二條 都督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任文官ノ進退ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任文官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス  
 第十三條 都督ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ所部文官ノ敘位敘動ヲ上奏ス  
 第十四條 都督ハ所部ノ文官ヲ懲戒ス其ノ勅任官ニ係ルモノ及奏任官ノ免官ハ外務大臣ニ由リ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏ス  
 第十五條 都督府ニ都督官房ヲ置ク  
 都督官房ニ副官一人及祕書官專任一人ヲ置キ機密ニ關スル事務ヲ掌ラシム  
 副官ハ陸軍佐尉官ヲ以テ之ニ充ツ  
 祕書官ハ奏任トス  
 第十六條 都督府ニ民政部及陸軍部ヲ置ク

陸軍部ニ關スル條例ハ別ニ之ヲ定ム  
 第十七條 民政部ハ軍事行政ヲ除クノ外一切ノ行政事務ヲ掌ル  
 第十八條 民政部ニ左ノ四課及一署ヲ置ク其ノ事務ノ分掌ハ都督之ヲ定ム  
 庶務課  
 警務課  
 財務課  
 土木課  
 監獄署  
 第十九條 關東州ヲ三區ニ分チ各區ニ民政署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ都督之ヲ定ム  
 第二十條 民政署及監獄署ノ事務ヲ分掌セシムル爲須要ノ地ニ民政支署及監獄支署ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ都督之ヲ定ム  
 第二十一條 都督府ニ左ノ職員ヲ置ク  
 民政長官 一人 勅任  
 參事官 專任二人 奏任  
 事務官 專任六人 奏任  
 民政署長 專任三人 奏任  
 技師 專任十八人 奏任  
 警視 專任六人 奏任  
 典獄 專任一人 奏任  
 翻譯官 專任三人 奏任

屬  
警部  
技手  
監吏  
監獄醫  
翻譯生

專任二百二十人 判任

- 第二十二條 民政長官ハ都督ヲ佐ケ民政部ノ事務ヲ總理ス
- 第二十三條 參事官ハ上官ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌リ又ハ各課ノ事務ヲ助ク
- 第二十四條 事務官ハ各課ノ長ト爲リ又ハ各課ニ分屬シ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス
- 第二十五條 民政署長ハ都督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ施行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス
- 第二十六條 民政署長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ民政署令ヲ發シ之ニ十圓以内ノ罰金又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得
- 第二十七條 民政署長ハ管内ノ靜謐ヲ維持スル爲兵力ヲ要スルトキハ之ヲ都督ニ具狀スヘシ但シ非常急變ノ場合ニ際シテハ直ニ其ノ附近ノ守備隊長ニ出兵ヲ要求スルコトヲ得
- 第二十八條 民政署長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ進退ヲ都督ニ具狀ス
- 第二十九條 民政署長ハ署中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得
- 第三十條 民政署長事故アルトキハ上席ノ官吏其ノ職務ヲ代理ス
- 第三十一條 民政署長ハ部下ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得
- 第三十二條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第三十三條 警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第三十三條 典獄ハ監獄署ノ長ト爲リ上官ノ命ヲ承ケ監獄事務ヲ掌理ス

- 第三十四條 翻譯官ハ上官ノ命ヲ承ケ翻譯通辯ヲ掌ル
- 第三十五條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第三十六條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察ニ關スル事務ニ從事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 第三十七條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
- 第三十八條 監吏ハ監獄署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護及庶務ニ從事シ部下ノ看守ヲ指揮監督ス
- 第三十九條 監獄醫ハ監獄署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス
- 第四十條 翻譯生ハ上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス
- 第四十一條 民政支署長ハ警視ニ屬又ハ警部、監獄支署長ハ監吏ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四十二條 民政支署長事故アルトキハ上席官吏其ノ職務ヲ代理ス
- 第四十三條 都督府ニ巡查及看守ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 巡查及看守ノ定員ハ都督之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月卅一日

關東都督府郵便電信局官制ヲ定ム

- 第一條 關東都督府郵便電信局ハ關東都督府民政部ニ屬シ郵便、電信及電話ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 郵便電信局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人 專任三人 兼任

通信事務官

通信事務官補	專任十八人	奏任
通信技師	專任四人	奏任
通信書記		
通信技手	專任五百六人	判任
通信書記補		

- 第三條 局長ハ通信事務官ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌理ス
- 第四條 通信事務官ハ局長タル者ノ外上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス
- 第五條 通信事務官補ハ上官ノ命ヲ承ケ局務ヲ掌ル
- 第六條 通信技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 第七條 通信書記及通信書記補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ局務ニ従事ス
- 第八條 通信技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
- 第九條 郵便電信局ノ事務ヲ分掌セシムル爲須要ノ地ニ郵便電信支局ヲ置ク其ノ位置、名稱及管轄區域ハ關東都督之ヲ定ム
- 第十條 支局長ハ部内ノ高等官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月卅一日

關東都督府法院令  
府法院令  
ヲ定ム

關東都督府法院令

- 第一條 關東都督府法院ハ關東都督ニ直屬シ民事刑事ノ裁判ヲ爲スコトヲ掌ル
  - 第二條 關東都督府法院ヲ分チテ地方法院及高等法院各一箇所トス
- 關東都督ハ必要ニ應シ地方法院出張所ヲ置クコトヲ得

- 第三條 地方法院ハ民事刑事ノ始審及非訟事件ノ事務ヲ行フ
- 第四條 高等法院ハ終審トシテ地方法院ノ裁判ニ對スル上訴ヲ審理ス
- 第五條 各法院ニ判官專任五人ヲ置ク
- 判官ハ奏任トス但シ高等法院長タル判官ハ之ヲ勅任トナスコトヲ得
- 第六條 各法院ニ院長ヲ置ク上級判官ヲ以テ之ニ充ツ
- 院長ハ院內一般ノ事務ヲ指揮シ其行政事務ヲ監督ス
- 高等法院ノ院長ハ地方法院ノ行政事務ヲ監督ス
- 院長事故アルトキハ次級判官其ノ職務ヲ代理ス
- 第七條 地方法院ハ單獨判官ヲ以テ總テノ事件ヲ審理ス
- 第八條 高等法院ハ判官二人ヲ以テ組織シタル部ニ於テ總テノ事件ヲ審理シ上級判官ヲ裁判長トス
- 第九條 各法院ニ檢察官專任一人ヲ置ク奏任トス
- 檢察官ハ司法警察官ヲ指揮監督シ刑事訴訟ヲ爲シ其ノ裁判ノ執行ヲ指揮監督ス
- 高等法院ノ檢察官ハ地方法院ノ檢察官ヲ指揮監督ス
- 地方法院ニ於テハ警視又ハ警部ヲシテ檢察官ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得
- 第十條 高等法院ニ通譯官專任一人ヲ置ク奏任トス
- 各法院ニ通譯生ヲ置ク判任トス其ノ定員ハ通シテ專任五人トス
- 通譯官及通譯生ハ通譯ニ従事ス
- 通譯官及通譯生ハ前項ノ外上官ノ命ヲ承ケ翻譯ニ従事ス
- 第十一條 各法院ニ書記ヲ置ク判任トス其ノ定員ハ通シテ專任二十人トス
- 書記ハ民事刑事ノ審理ニ關スル準備ヲ爲シ、調書ヲ作り及一切ノ訴訟記録ヲ整理保管ス

書記ハ前項ノ外上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月卅一日

關東都督

府職員官

等給與令

ヲ定ム

關東都督府職員官等給與令

第一條 關東都督府高等文官ノ官等ハ別表高等文官官等表ニ依ル

第二條 關東都督ノ年俸ハ六千圓、民政長官ノ年俸ハ三千五百圓又ハ四千圓、勅任判官ノ年俸ハ三千圓又ハ三千五百圓トス其ノ他ノ高等文官ノ俸給ハ別表高等文官俸給表ニ依ル

第三條 同一官職ニシテ官等ニ依リ其ノ俸給ヲ異ニスルモノハ別表高等文官官等相當俸給表ニ依ル

第四條 技術官ニハ事務ノ繁閑ニ依リ俸給最低額以下ヲ給スルコトアルヘシ

第五條 關東都督府文官ニハ加俸ヲ支給ス其ノ額ハ俸給額十分ノ三ニ相當スル金額トス

滿二年間關東都督府文官ヲ勤続シタル者ニハ前項ノ金額ノ外更ニ俸給額二十分ノ一ニ相當スル金額ヲ増給シ滿二年以上ノ者ニハ一箇年ヲ加アル毎ニ二十分ノ一ヲ増給シ加俸全額俸給額十分ノ五ニ至リテ止ム

加俸ノ支給方ハ俸給ノ例ニ依ル

第六條 本令ニ規定セサルモノハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外高等官官等俸給令及判任官俸給令ニ依ル

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前滿洲ニ在勤シタル文官ニシテ引續キ關東都督府文官タル者ハ從前ノ勤續年月數ヲ

第五條ノ勤續年數ニ通算ス

(別表)

高等文官官等表

職 任	勅 任		奏 任							
	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等	六 等	七 等	八 等	任	
都 督										
民政長官	同	上								
			參事官	同	同	同	同	同	同	同
			事務官	同	同	同	同	同	同	同
			民政署長	同	同	同	同	同	同	同
			秘書官	同	同	同	同	同	同	同
			技 師	同	同	同	同	同	同	同
					警 視	同	同	同	同	同
					典 獄	同	同	同	同	同
					翻譯官	同	同	同	同	同
						通譯官	同	同	同	同
						通信技師	同	同	同	同
列 官										
同										
上										
同										
上										
同										
上										
同										
上										
同										
上										

高等文官俸給表

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
二千八百圓	三千四百圓	四千圓	四千五百圓	五千圓	五千五百圓	六千圓	六千五百圓	七千圓	七千五百圓	八千圓	八千五百圓	九千圓	九千五百圓
參事官同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
事務官同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
民政署長同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
秘書官同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
技師同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
通信事務官	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
翻譯官	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
典獄官	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
警視官	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
通信技師	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
檢察官	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同
通譯官	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同	上同

高等文官官等相當俸給表

官名	等級	俸給
參事官	一級	九千圓
事務官	二級	八千圓
民政署長	三級	七千圓
秘書官	四級	六千圓
技師	五級	五千圓
通信事務官	六級	四千五百圓
翻譯官	七級	四千圓
典獄官	八級	三千五百圓
警視官	九級	三千圓
通信技師	十級	二千五百圓
檢察官	十一級	二千圓
通譯官	十二級	一千五百圓

七月卅一日  
關東都督府職員特別任用令  
府職員特別任用令  
ヲ定ム

關東都督府職員特別任用令

第一條 關東都督府事務官ニシテ涉外事務ニ從事スル者ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ左ニ掲クル者ノ中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

一 外交官、領事官又ハ貿易事務官ノ職ニ在ル者

二 外交官又ハ領事官タルノ資格ヲ有スル者

前項ニヨリ任用シタル事務官ニシテ外交官、領事官、貿易事務官又ハ外務省高等官ニ轉任シ又ハ轉任セムトスル場合ニ於テハ關東都督府ノ在職ヲ以テ在外公館ノ在職ト看做ス

第二條 關東都督府警視ハ滿三年以上警察事務ニ從事シ現ニ判任官四級俸以上ノ官職ニ在ル者ニ限リ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

第三條 關東都督府典獄及監吏ノ任用ニ關シテハ典獄及看守長特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ監吏ニ關セル者ヲ除外ス

第四條 關東都督府警部ノ任用ニ關シテハ警部消防士特別任用令ノ規定ヲ準用ス但シ考試委員、考查ノ方法及試驗科目ハ關東都督府之ヲ定ム

第五條 關東都督府通信事務官及通信事務官補ノ任用ニ關シテ通信事務官通信事務官補特別任用令ノ規定ヲ準用ス

任用令、通信書記ニ關シテハ通信屬、通信書記補ニ關シテハ通信手ノ任用ニ關スル規定ヲ準用ス但シ通信書記補ノ試験規則ハ關東都督之ヲ定ム、

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府警視ハ本令施行ノ際ニ限リ關東州ニ於ケル警察事務ニ從事シ現ニ判任官三級俸以上ノ官職ニ在ル者ヨリ文官高等試験委員ノ銜衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

七月卅一日  
關東都督府  
府法院判  
官及檢察  
官任用令  
ヲ定ム

關東都督府法院判官及檢察官任用令

關東都督府法院判官及檢察官ハ裁判所構成法ニ依リ判事又ハ檢事タル資格ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月卅一日  
關東都督府  
祕書官ノ  
任用及官  
等ヲ定ム

關東都督祕書官ノ任用及官等ニ關シテハ文官任用令並高等官官等俸給令第七條及第八條ノ規定ヲ適用セス

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月卅一日  
關東都督府  
陸軍部

關東都督府陸軍部條例

第一條 關東都督陸軍部ハ關東都督ノ所轄内ニ於ケル陸軍一般ニ關スル事ヲ掌ル

第二條 關東都督府陸軍部ハ左ノ各部ヨリ成ル

條例ヲ定ム

- 參謀部
- 副官部
- 參謀部及副官部ヲ合シテ幕僚トス
- 法官部
- 經理部
- 軍醫部
- 獸醫部
- 第三條 參謀長ハ關東都督ヲ輔佐シ陸軍ノ機務ニ參畫シ命令ノ普及並實施ヲ監督シ關東都督府陸軍部内一般ノ業務監督ニ任ス
- 第四條 幕僚ノ各將校及同相當官ハ參謀長ノ指揮ヲ受ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル
- 第五條 法官部長ハ關東都督ニ隸シ軍事司法ニ關スル業務ヲ掌ル
- 第六條 經理部長ハ關東都督ニ隸シ駐劄諸部隊ノ會計經理ヲ監督シ陸軍土地建造物國防及鐵道ニ關スニ係ル事項並經理部士官以下ノ人事及教育ヲ統轄シ特ニ兵營其ノ他新設ノ臨時工事ヲ掌ル但シ會計事務ノ監督及土地建造物ノ經營事務ニ關シテハ陸軍大臣ニ直隸シ經理部士官以下ノ人事及教育ニ關シテハ陸軍省經理局長ノ區處ヲ受ケ
- 第七條 團經理部長ハ師團經理部管轄外ノ部隊ニ係ル會計經理ヲ總轄ス但シ駐劄部隊ノ位置ニ依リ師團經理部ヲシテ之ヲ管掌セシムルコトヲ得
- 第八條 軍醫部長ハ關東都督ニ隸シ駐劄諸部隊ノ衛生業務ヲ監督シ衛生部士官以下ノ人事及教育並衛生材料ニ係ル事項ヲ統轄ス但シ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ケ
- 第九條 獸醫部長ハ關東都督ニ隸シ駐劄諸部隊ノ軍馬衛生業務ヲ監督シ獸醫部士官以下ノ人事及教育並獸醫材料蹄鐵ニ關スル事項ヲ統轄ス但シ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ケ

第九條 各部長ヨリ關東都督ニ具申スヘキ事項ハ豫メ參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ受クヘキモノトス

第十條 法官部經理部軍醫部及獸醫部部員ハ當該部長ノ命ヲ受ケ各自擔任ノ部務ニ服ス

第十一條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

七月卅一日

韓國駐劄軍司令部條例

第一條 韓國駐劄軍司令官ハ陸軍大將又ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ親補シ  
天皇ニ直隸シ韓國駐劄陸軍諸部隊ヲ統率シ韓國ノ防衛ニ任ス

第二條 軍司令官ハ軍政及人事ニ關シテハ陸軍大臣、作戰及動員計畫ニ關シテハ參謀總長、教育ニ關シテハ教育總監ノ區處ヲ受ク

第三條 軍司令官ハ韓國ノ安寧秩序ヲ保持スル爲統監ノ命令アルトキハ兵力ヲ使用スルコトヲ得但シ事急ナル場合ニ於テハ便宜之ヲ處置シ後統監ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ直ニ陸軍大臣及參謀總長ニ報告スヘシ

第四條 軍司令官ハ隨時部下軍隊及官衙ヲ檢閲シ毎年概ネ軍隊教育期ノ終ニ於テ軍事一般ノ景況及意見ヲ奏上シ且陸軍大臣參謀總長及教育總監ニ報告スヘシ

第五條 韓國駐劄軍司令部ハ左ノ各部ヨリ成ル

一 軍參謀部

二 軍副官部

軍參謀部及軍副官部ヲ合シテ幕僚トス

三 軍法官部

四 軍經理部

五 軍軍醫部

六 軍獸醫部

第六條 軍參謀長ハ軍司令官ヲ補佐シ機務ニ參畫シ命令ノ普及並實施ヲ監督ス

第七條 軍參謀長ハ幕僚ノ事務ヲ監督シ事務整理ノ責ニ任ス

第八條 幕僚ノ各將校及同相當官ハ軍參謀長ノ指揮ヲ受ケ各自分擔ノ事務ヲ掌ル

第九條 軍法官部長ハ軍司令官ニ隸シ軍事司法ニ關スル業務ヲ掌ル

第十條 軍經理部長ハ軍司令官ニ隸シ駐劄諸部隊ノ會計經理ヲ監督シ陸軍土地建造物國防ニ關スルモノノ除ニ係ル事項並經理部士官以下ノ人事及教育ヲ統轄シ特ニ兵營其ノ他新設ノ臨時工事ヲ掌ル但シ會計事務ノ監督及土地建造物ノ經營事務ニ關シテハ陸軍大臣ニ直隸シ經理部士官以下ノ人事及教育ニ關シテハ陸軍省經理局長ノ區處ヲ受ク

軍經理部長ハ師團經理部管轄外ノ部隊ニ係ル會計經理ヲ總轄ス但シ駐劄部隊ノ位置ニ依リ師團經理部ヲシテ之ヲ管掌セシムルコトヲ得

第十一條 軍軍醫部長ハ軍司令官ニ隸シ駐劄諸部隊ノ衛生業務ヲ監督シ衛生部士官以下ノ人事及教育並衛生材料ニ係ル事項ヲ統轄ス但シ陸軍省醫務局長ノ區處ヲ受ク

第十二條 軍獸醫部長ハ軍司令官ニ隸シ駐劄諸部隊ノ軍馬衛生業務ヲ監督シ獸醫部士官以下ノ人事及教育並獸醫材料蹄鐵ニ關スル事項ヲ統轄ス但シ陸軍省軍務局長ノ區處ヲ受ク

第十三條 各部長ヨリ軍司令官ニ具申スヘキ事項ハ豫メ軍參謀長ニ開陳シ其ノ承認ヲ受クヘキモノトス

第十四條 軍法官部軍經理部軍軍醫部及軍獸醫部部員ハ當該部長ノ命ヲ受ケ各自擔任ノ部務

本官制ハ三十四年  
五月二十三日勅令  
第百十六號ヲ以テ  
定ムル所

八月一日勅令

臺灣總督  
府專賣局  
官制ヲ補  
訂ス

ニ服ス  
第十五條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ受ケ事務ニ服ス  
附 則  
本令ハ明治三十九年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

八月二日勅令

南滿洲鐵  
道株式會  
社ノ職員  
ト爲リタ  
ル官吏ニ  
關スル件  
ヲ定ム

在職官吏ニシテ南滿洲鐵道株式會社ノ職員ト爲リタル者ニ關シテハ明治三十七年勅令第百九十五號ヲ準用ス

八月四日勅令

癩兵院條  
例ヲ定ム

癩兵院條例  
第一條 癩兵院ハ所在地所管ノ師團長之ヲ管理シ陸軍大臣ノ監督ニ屬ス  
癩兵院ノ位置及收容ニ關スル事項ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第二條 癩兵院ニ左ノ職員ヲ置ク

院長  
主事  
主計  
軍醫

下士判任文官

院長及主事ハ將校同相當官ヲ以テ之ニ充ツ

第一項ノ職員ハ豫備役後備役ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第三條 院長ハ師團長ニ隸シ院務ヲ掌理ス

第四條 主事、主計、軍醫ハ院長ノ命ヲ承ケ院務ニ從事ス

第五條 下士判任文官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ニ服ス

第六條 癩兵院ニ於テハ戰鬪其ノ他公務ニ基因スル傷痍疾病ノ爲退役ト爲リ其ノ他服役ヲ免

セラレタル者ヲ事務員ト爲シ主事以下職員ノ事務ヲ執ラシムルコトヲ得

前項事務員ニハ俸給豫算定額内ニ於テ手當ヲ支給ス

第七條 癩兵院ニ收容スル者ハ入院志願者中自己ノ資産又ハ勞役ニ依リ自活スルコト能ハサ

ル者ニ限ル

軍人恩給法第九條第一項第二號以上ノ不具癩疾者ニシテ救護ヲ要スヘキ特別ノ事情アル者

ハ前項ノ規定ニ拘ラス之ヲ收容スルコトヲ得

第八條 癩兵院ニ收容スル順序ハ左ノ各號ヲ參酌シ救護ノ必要多キ者ヲ先ニス

一 症項ノ原因及輕重

二 資産ノ多少及勞役ノ能否



三 扶養義務者其ノ他救護ヲ爲ス者ノ有無  
 四 年齢ノ多少  
 五 品行ノ良否  
 六 其ノ他生活ニ關スル各種ノ狀況

第九條 癡兵院ニ收容シタル者ニハ入院及退院ニ要スル旅費ヲ給ス其ノ金額及支給ノ方法ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十條 癡兵院ニ收容シタル者ニハ入院ノ日ヨリ退院ノ日迄本人ノ受クヘキ恩給月割額五分ノ一ニ相當スル金額ヲ毎月手當トシテ支給ス但シ死亡ノ場合ニ在リテハ其ノ月ノ全額ヲ支給ス

第十一條 癡兵院ニ收容シタル者ノ糧食ハ現人員ニ應ジ定額ヲ交付シ院長ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十二條 癡兵院ニ收容シタル者ニハ所要ノ被服ヲ支給シ又ハ貸與ス  
 前項被服ハ初度現品ヲ備附ケ爾後新調補修料トシテ現人員ニ應ジ定額ヲ交付シ院長ニ其ノ經理ヲ委任ス

備附被服ノ種類員數及新調補修料ノ定額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十三條 癡兵院ニ收容シタル者傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ病院ニ於テ治療ヲ要スルトキハ所在地衛戍病院ニ收療ス

第十四條 癡兵院ニ收容シタル者ハ服役ヲ免セラレタル當時ノ官等級ニ應ジ現役陸軍軍人ト看做シ陸軍懲罰令ノ規定ヲ適用ス但シ下士兵卒タリシ者ハ營内居住者ノ例ニ依ル

第十五條 癡兵院ニ收容シタル者入院中死亡シタルトキハ士官以上ニ在リテハ三十圓以内、准士官ニ在リテハ二十圓以内、其ノ他ノ者ニ在リテハ十五圓以内ノ費用ヲ以テ官ニ於テ埋葬ス但シ遺族又ハ故舊ヨリ遺骸ノ引渡ヲ請フ者アルトキハ埋葬料トシテ本條ノ金額ヲ支給ス

第十六條 癡兵院ハ圖書器物等ノ寄附ヲ受ケ各其ノ目的ニ使用スルコトヲ得

附 則  
 本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

<p>本條例ハ三十一年二月十八日勅令第二十七號ヲ以テ定ムル所</p>	<p>八月五日  <small>明治三十九年八月五日</small>  <b>統監府及理事廳巡查部長選任規程ヲ定ム</b></p>	<p>八月五日  <small>明治三十九年八月五日</small>  <b>衛戍病院</b></p>
<p>八月五日  <small>明治三十九年八月五日</small>  <b>統監府及理事廳巡查部長選任規程ヲ定ム</b></p>	<p>統監府及理事廳巡查部長選任規程</p> <p>第一條 統監府及理事廳巡查部長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル巡查ヨリ之ヲ選任ス</p> <p>一 文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者</p> <p>二 警部又ハ巡查部長タリシ者</p> <p>三 一箇年以上在職ノ巡查ニシテ試験ニ合格シタル者</p> <p>第二條 試験ハ理事官ノ推薦シタル巡查ニ就キ之ヲ行フ</p> <p>第三條 試験委員ハ統監府警視及警部ヲ以テ之ヲ組織ス</p> <p>第四條 試験ハ左ノ科目ニ依リ之ヲ行フ</p> <p>一 行政法ノ大意</p> <p>二 刑法及刑事訴訟法ノ大意</p> <p>三 行政警察ニ關スル諸法規ノ大意</p> <p>第五條 試験ハ試験委員ニ於テ定メタル問題ニ依リ理事官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得但シ答案ノ檢定ハ此ノ限ニ在ラズ</p>	<p>衛戍病院條例中左ノ通改正ス</p> <p>第一條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ</p>

明治三十九年八月十七日

條例ヲ補訂ス

前項ノ外衛戍病院ハ駐節部隊ヨリ内地ニ還送スル患者ヲ收療スルコトヲ得其ノ手續ハ陸軍大臣之ヲ定ム  
第八條第二項 削除

八月七日

月俸三十圓未滿ノ判任官ノ俸給ニ關スル件ヲ定ム

判任官ノ俸給ハ月俸三十圓未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給スルコトヲ得但シ各所定ノ最低俸給額ヲ下ルコトヲ得ス

八月七日

文武判任官等級表ヲ補訂ス

文武判任官等級表中左ノ通改正ス  
文武判任官等級表中四等ノ欄七級俸及四級俸ヲ「三十圓以下」ニ、「五級俸」ヲ「三十圓未滿」ニ、「二級俸」及「一級俸」ヲ「二十五圓以下」ニ、「五等ノ欄」九級俸「五級俸」二級俸「九級俸」九級俸「十級俸」六級俸「三級俸」十級俸「十級俸」十二圓未滿「九級俸」及「十級俸」十五圓未滿「十圓以下六圓以上」ヲ「二十圓以下」ニ、「四級俸」ヲ「二十圓未滿」ニ改ム

八月七日

特許局官制ヲ補訂ス

特許局官制中左ノ通改正ス  
第二條中「八人」ヲ「十人」ニ、「二十四人」ヲ「二十六人」ニ、「三十一人」ヲ「三十三人」ニ、「二十二」人」ヲ「二十四人」ニ改ム

八月十七日

明治三十九年一月統監府令第六號理事廳ノ位置及管轄區域中左ノ通改正シ九月十五日ヨリ之ヲ

本表ハ二十七年四月十二日勅令第四十三號ヲ以テ改ムル所

本官制ハ三十六年十二月四日勅令第二百三十四號ヲ以テ定ムル所

理事廳ノ位置及管轄區域ヲ補訂ス

施行ス

釜山理事廳ノ項ヲ左ノ如ク改ム

釜山理事廳	釜山	慶尙道南部一帯ノ地域 北部ハ大邱理事廳管區ニ接ス西南部ハ金海、密陽、靈山、昌寧ノ各郡ヲ以テ馬山理事廳管區ニ接ス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス 慶尙道東部沿岸一帯ノ地域 西部ハ長湍、迎日、興海、清河、盈徳、寧海ノ各郡ヲ以テ大邱理事廳管區ニ接ス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス 江原道東部沿岸一帯ノ地域 北部ハ元山理事廳管區ニ接ス西部ハ平海、蔚珍、三陟ノ各郡ヲ以テ大邱理事廳管區ニ接ス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス
-------	----	---

城津理事廳ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

大邱理事廳	大邱	慶尙道北部一帯ノ地域 南部ハ玄風、清道、慈仁、慶州ノ各郡ヲ以テ釜山理事廳管區ニ接ス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス 東部ハ釜山理事廳管區ニ接ス西南部ハ高靈、星州、知禮ノ各郡ヲ以テ馬山理事廳管區ニ接ス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス 忠清道東南部一帯ノ地域 永同、青山ノ各郡ヲ以テ西部トノ境界線トス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス 江原道南部一帯ノ地域 平昌、旌善ノ各郡ヲ以テ北部トノ境界線トス但シ其ノ各郡ハ本管區ニ屬ス 東部ハ釜山理事廳管區ニ接ス
-------	----	---

馬山理事廳管轄區域欄中「釜山理事廳」ノ下ニ「及大邱理事廳」ヲ加ヘ京城理事廳管轄區域欄中「釜山」ヲ「大邱」ニ改メ元山理事廳管轄區域欄中「京城」ノ下ニ「大邱」ヲ加フ

明治三十九年八月十七日

本年十二月十八日  
 統監府令第五十三  
 號ヲ以テ廢ス

八月十七日 第三號

在外指定  
 學校職員  
 俸給額規  
 則ヲ定ム

明治三十九年八月十七日至二十四日

在外指定學校職員俸給額規則

第一條 小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ職員ノ月俸ハ第一號表ニ依ル

第二條 中學校、高等女學校若ハ實業學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ職員ノ月俸ハ第二號表ニ依ル

附 則

第三條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
學校長、訓導	上七十五圓	六十四圓	五十四圓	四十四圓	三十四圓	二十四圓	十四圓	四圓	三圓	二圓
准訓導	上六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十圓	九圓	八圓	七圓	六圓
下	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十圓	十圓	九圓	八圓	七圓	六圓

第二號表

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級
學校長	七十五圓	七十圓	六十五圓	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓
助教諭	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	十五圓		
舍監	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	十五圓		
書記	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十七圓	十五圓		

八月廿四日 第三號  
 外國政府  
 二聘用セ

明治三十七年勅令第九十五號第一項中「増置セラレタルモノトス」ノ下ニ「其ノ現役軍人ナ

本規程ハ二十九年  
 七月二日勅令第二  
 百六十四號ヲ以テ  
 定ムル所

ラレタル  
 官吏ニ關  
 スル件ヲ  
 補訂ス

八月廿四日 第三號  
 學校職員  
 恩給審査  
 規程ヲ補  
 訂ス

八月廿七日 第三號  
 臨時郵便  
 貯金事務  
 ノ爲通信  
 官署ニ職  
 員ヲ増置  
 ス

八月廿九日 第三號  
 關東都督  
 府通信書  
 記補ノ俸  
 給ヲ定ム

ルトキハ定員外トス」ヲ加ヘ第三項中「旅費ハ之ヲ支給セス」ヲ「其ノ他ノ給與ハ之ヲ支給セ

學校職員恩給審査規程中左ノ通改正ス

第一條第二項中「公立學校ノ學校長及教員」ヲ「公立學校及在外指定學校職員」ニ改ム

第九條第二項中「市町村立小學校教員並ニ公立實業補習學校ノ學校長及教員」ヲ「市町村立小

學校、公立實業補習學校及公立幼稚園職員」ニ改ム

臨時郵便貯金事務ノ爲通信官署ニ左ノ職員ヲ増置ス

通信事務官

一人

通信事務官補

三人

通信手

六十五人

通信手

百五十八人

關東都督府通信書記補ノ本俸ニ付テハ通信手ノ俸給ニ關スル規定ヲ準用ス

明治三十九年八月二十四日至二十九日

八月廿九日 勅令  
關東都督府巡查看守任用及給與方ヲ定ム

第一條 關東都督府巡查看守ノ任用ニ關スル規定ハ關東都督府之ヲ定ム

第二條 關東都督府巡查看守ノ俸給ニ關シテハ巡查看守俸給令ニ依ル

第三條 關東都督府巡查看守ニハ俸給ノ外月額二十圓以内ノ手當ヲ支給ス

第四條 關東都督府巡查看守ニハ被服及屬具ヲ支給シ又ハ貸與ス但シ必要ニ應ジ其ノ全部又ハ一部ニ對シ代價ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五條 關東都督府巡查看守ニハ巡查看守療治料給助料及弔祭料給與令ヲ適用ス

第六條 本令ニ關スル細則ハ關東都督府之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

八月卅日 勅令  
公債事務處理ノ爲大藏省及臨時國債整理局高等官ノ中一名ヲ歐米ニ駐在セシムルノ件ヲ定ム

公債ニ關スル事務處理ノ爲大藏省及臨時國債整理局高等官ノ中一名ヲ歐米ニ駐在セシムル場合ニ於テハ臨時其ノ官ヲ増置シタルモノトス

前項ノ官吏ニハ俸給ノ外手當ヲ支給シ駐在中ノ旅費ハ之ヲ支給セス

第一項ノ官吏ニハ在外國帝國大使館附ヲ命スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

八月卅日 勅令  
俘虜情報局設置方ヲ廢ス

明治三十七年勅令第四十四號ハ之ヲ廢止ス

八月卅日 勅令  
陸軍補充條例ヲ補訂ス

陸軍補充條例中左ノ通改正ス

第四十一條第二號中「實科生徒」ノ下ニ「及官立實業專門學校獸醫學科生徒」ヲ加ヘ「同學實科」ヲ「同學科」ニ改メ第三號中「獸醫學科」又ハ「同大學獸醫學實科」ヲ「獸醫學科、同大學實科」又ハ「官立實業專門學校獸醫學科」ニ改ム

第四十五條中「保證書」ノ下ニ「履歷書」ヲ、「獸醫學實科」ノ下ニ「又ハ官立實業專門學校獸醫學科ノ課程」ヲ加フ

八月卅日 勅令  
高等教育會議規則ヲ補訂ス

高等教育會議規則中左ノ通改正ス

第四條第一項第六號中「文科大學長」ヲ「文科大學長一人」ニ改メ第七號中「札幌農學校長」ノ下ニ「及高等農林學校長ノ中一人」ヲ、「高等工業學校長」ノ下ニ「及高等工藝學校長ノ中」ヲ加ヘ第十一號中「道廳府縣視學官」ヲ「第二部長タル道廳府縣事務官」ニ、第十七號中「東京學士會院會長」ヲ「帝國學士院長、帝國學士院部長」ニ改ム

九月一日 勅令  
臺灣總督府及關東都督府ニ顧問ヲ置ク

第一條 臺灣總督府及關東都督府ニ顧問各一人ヲ置クコトヲ得

第二條 顧問ハ臺灣總督府又ハ關東都督府ノ所管ニ屬スル行政事務ニ關シ臺灣總督又ハ關東都督府ノ諮詢ニ應ジテ意見ヲ開陳ス

第三條 顧問ハ臺灣總督府ニ在リテハ內務大臣、關東都督府ニ在リテハ外務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

本條例ハ廿九年十月一日勅令第三百七十九號ヲ以テ定ムル所

本規則ハ三十一年六月十七日勅令第三百五號ヲ以テ改ムル所

九月一日  
統監府鐵道監理局書記及技手任用ニ關スル件

統監府鐵道監理局書記及技手任用ニ關スル件左ノ通定ム  
明治三十九年勅令第九十二號施行ノ際現ニ臨時軍用鐵道監部京義線及馬山線ノ事務ニ從事スル者ニシテ別ニ辭令ヲ交付セサル遞信屬、鐵道書記及臺灣總督府鐵道部書記ハ統監府鐵道管理局書記ニ遞信技手及鐵道技手ハ統監府鐵道管理局技手ニ現給ノ儘現任地ニ於テ任用セラレタルモノトス  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九月一日  
關東都督府巡查ノ定員ヲ定ム

關東都督府ノ巡查定員ハ七百八十人トス

九月一日  
關東都督府警部特別任用ニ關スル考試規程

- 第一條 警部ノ考試ハ先ツ實務ノ成績ヲ考查シ優等者ヲ選拔シテ更ニ學術試驗ヲ行フモノトス
- 第二條 巡查實務ノ成績ハ考查表ヲ備置キ左ノ項目ニ從ヒ隨時記入スヘシ
  - 一 姿勢禮式服裝其ノ他紀律ニ關スル事項
  - 二 職務執行ノ當否
  - 三 勤務ノ勉否
  - 四 書類報告ノ整否
  - 五 法規ノ講習及應問ノ成績
  - 六 操練及武術熟ノ否
  - 七 支那語又ハ其ノ他ノ外國語ノ熟否

定ム

- 八 性行及特種ノ技能
- 第三條 實務ノ成績ハ六箇月七月ヨリ六月ニ至ルヲ一期トシ民政署長ニ於テ巡查監督ノ任ニ在ル警視又ハ警部ノ意見ヲ徵シ參考ノ資料トシテ考查表ニ記入シ翌年一月十五日マテニ考試委員長ニ送付スヘシ
- 第四條 實務成績ノ考查ハ考試委員ニ於テ民政署長ノ意見ヲ聽キ考查表ニ照合シ其ノ優劣ヲ判定スヘシ
- 第五條 學術試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
  - 一 憲法行政法及國際法大意
  - 二 刑法
  - 三 刑事訴訟法
  - 四 警察ニ關スル法規
  - 五 算術(比例百分算迄)
  - 六 支那語又ハ其ノ他ノ外國語
- 第六條 學術試驗ハ筆記及口述トス口述試驗ハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シ之ヲ行フ
- 第七條 筆記試驗ノ答案ハ考試委員ノ定メタル問題ニ依リ民政署長ヲシテ之ヲ徵集セシムルコトヲ得
- 第八條 學術試驗ノ評點ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ各科目平均六十點以上ヲ合格トス但シ一科目三十點未滿ノモノアルトキハ合格ト爲スコトヲ得ス
- 第九條 考試委員ハ關東都督府民政部警務課長關東都督府事務官二人及關東都督府警視一人ヲ以テ組織シ關東都督府民政部警務課長ヲ以テ委員長トス
- 第十條 考查表及考試合格證書ハ別記様式ニ依ル

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
明治二十三年勅令第十號ニ依リ警部ニ任用セラレタル者ニシテ警察監獄學校ノ課程ヲ修了シタル者及明治三十年勅令第二百十五號警部消防士特別任用令又ハ明治三十八年勅令第四百四十七條警部消防士特別任用令ニ依リ警部又ハ消防士ニ任用セラレタル者ハ本規程ノ考試合格證書ヲ有スル者ト看做ス  
〔別記様式略ス〕

九月一日

關東都督

府監吏特

別任用ニ

關スル考

試規程ヲ

定ム

關東都督府監吏特別任用ニ關スル考試規程

第一條 監吏ノ考試ハ先ツ實務ノ成績ヲ考查シ優等者ヲ選拔シテ更ニ學術試驗ヲ行フモノトス  
第二條 看守ノ實務成績ハ考查表ヲ備置キ左ノ項目ニ從ヒ隨時記入スヘシ  
一 姿勢、禮式、服裝其ノ他紀律ニ關スル事項  
二 職務執行ノ當否  
三 勤務ノ勉否  
四 書類報告ノ整否  
五 特技ノ有無  
六 其ノ他典獄ノ必要ト認メタル事項

第三條 實務成績ノ考查ハ監吏ノ意見ヲ徵シ考查表ニ照合シテ優劣ヲ判定スヘシ

第四條 學術試驗ハ左ノ科目ニ從ヒ之ヲ行フ但シ簿記ハ便宜之ヲ省略スルコトヲ得

一 監獄ニ關スル法規  
二 刑法、刑事訴訟法ノ大要

- 三 會計法規ノ大要
  - 四 算術(比例百分算迄)
  - 五 簿記
  - 六 清國語
- 第五條 看守考試規程ニ依リ看守長若ハ監吏ニ任用セラレタル者及元警察監獄學校監獄科ヲ卒業シタル者ハ本規程ノ考查及試驗ニ合格シタルモノト看做ス
- 附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

九月一日

關東都督

府通信書

記補特別

任用ニ關

スル試驗

規則ヲ定

ム

關東都督府通信書記補特別任用ニ關スル試驗規則

第一條 年齡滿十六歲以上三十五歲以下ノ男子ニシテ身體健全且左ノ各號ノ一ニ該當セサル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得  
一 重罪ヲ犯シタル者  
但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス  
二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者  
三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第二條 試驗志願者ハ別記書式ニ依リ願書及履歷書ニ左ノ證明書ヲ添ヘ試驗期日十日前迄ニ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ

一 身分、職業、年齡及兵役ニ關スル市區町村長ノ證明書

二 本規則第一條第一號但書及同第三號ニ該當スル者ハ其ノ復權又ハ債務ノ辨償ヲ終ヘタ

本年十二月九日關  
東都督府令第三十  
二號ヲ以テ補訂ア

ル證明書

- 第三條 試驗期日及場所等ハ豫メ府報又ハ大連ニ於テ發行スル新聞紙其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
  - 第四條 試驗出願者ハ試驗手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ手数料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖還付セス
  - 第五條 不正ノ方法ニ依リ試驗ヲ受ケント企テタル者及試驗ニ關スル規定ニ違背シタル者ハ其ノ期ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス若事後其ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス
  - 第六條 試驗ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ
    - 一 讀書
    - 二 作文 書牘、記事、若ハ論說
    - 三 筆蹟 楷書、行書
    - 四 數學 筆算(比例)珠算(四則)
    - 五 地理 本邦及外國地理ノ大要
    - 六 歷史 本邦歷史ノ大要
  - 以上ノ科目ハ悉ク之ヲ課ス
  - 一 郵便ニ關スル法規ノ大要
  - 二 郵便爲替及貯金ニ關スル法規ノ大要
  - 三 電信ニ關スル法規ノ大要
  - 四 電話ニ關スル法規ノ大要
  - 五 會計法及會計規則ノ大要
- 以上ノ科目ハ受験者ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

九月一日

關東都督府看守採用規則

- 一 簿記 官用簿記
  - 二 清語
  - 三 外國語
- 以上ノ科目ハ受験者ノ冀望ニ依リテ之ヲ課ス
- 第七條 試驗ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ一科目四十點未滿又ハ各科目平均六十點未滿ヲ不  
合格トス
- 第八條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ附與ス
- 第九條 合格證書ノ有効期限ハ其ノ日附ヨリ滿二箇年トス
- 第十條 試驗合格者ノ氏名ハ府報ヲ以テ之ヲ公示ス
- 第十一條 試驗委員長ハ郵便電信局長ヲ以テ之ニ充テ試驗委員ハ若干名トシ關東都督之ヲ命ス
- 第十二條 試驗ニ關スル手續ハ試驗委員長之ヲ定ム
- 附 則
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 判任文官トシテ通信事務ニ從事シタル者ハ本規則ノ試驗ニ合格シタルモノト看做ス
- 〔別記書式略ス〕
- 關東都督府看守採用規則
- 第一條 關東都督府看守ハ試驗ヲ經テ之ヲ採用ス但シ左ニ記載シタルモノハ體格ノミヲ検査シテ採用スルコトヲ得
- 一 會テ判任官以上ノ職ヲ奉シタル者

定ム

- 二 看守精勤證書ヲ有スル者
- 三 二年以上看守ノ職ニ在リ退職後二年ヲ經過セサル者
- 第二條 看守志願者ハ品行方正年齢二十一歳以上四十五歳未満ニシテ徵兵ニ相當セス且左ノ各項ニ抵觸セサル者タルコトヲ要ス
  - 一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
  - 二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
  - 三 巡查看守懲罰令又ハ官吏懲戒令ニ依リ免職セラレ二年ヲ經過セサル者
  - 四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
  - 五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者
- 第三條 看守志願者ハ其ノ願書ニ履歷書戸籍謄本及第二條第一號乃至第四號ニ對スル官公署ノ證明書ヲ添付スヘシ
- 第四條 看守採用試験ヲ別テ體格検査及學術試験ノ二種トス
  - 體格検査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス
- 第五條 體格検査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
  - 一 體質善良ニシテ嫌惡スヘキ疾患ナキ者
  - 二 身幹五尺以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者
  - 三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ナル者
  - 四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者
  - 五 言語應答明瞭ニシテ充分發聲ニ堪ユル者
  - 六 精神完全ナル者即チ精神病及神經病無キ者

第六條 學術試験ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

- 一 刑法刑事訴訟法裁判所構成法監獄則監獄則施行細則等ノ大要ニ通スル者
- 二 普通往復文及申告書ヲ作り得ル者
- 三 算術加減乗除ヲ解シ得ル者
- 第七條 學術試験ハ監吏二名以上立會ヒ之ヲ行フ
- 第八條 學術試験ニ合格シタル者ハ其ノ點數多キ者ヨリ順次看守ニ採用ス
- 第九條 看守ニ採用セラルヘキ者ニ對シテハ典獄親シク左ノ諸件ヲ宣告シ誓文ヲ徴シタル上之ヲ採用ス
  - 一 官吏服務規律ヲ恪守スヘキハ勿論常ニ上官ノ命令ヲ遵守シ勤務中ハ勿論勤務ニ服セサルトキト雖政治ノ是非得失ヲ論評スルカ如キコトアルマシキ事
  - 一 在監人ト相狎狎スルカ如キコトナク職務上負擔スル百般ノ責務ハ最モ嚴正忠實ニ之ヲ踐行スヘキコト
  - 一 一旦奉職ノ上ハ他念ナク職務ニ從事シ三箇年未満ニシテ一身ノ故ヲ以テ辭職スルカ如キコトアルマシキコト
  - 一 自己ハ勿論家族ニ至ルマテ専ラ品行ヲ正シクシ監獄官吏タリ又ハ其ノ家族タルノ體面ヲ汚損スルカ如キ所業アルマシキ事
- 第十條 誓文ハ典獄ノ面前ニ於テ本人ヲシテ左ノ如ク自書捺印セシム

誓文

今般關東都府看守志願仕候ニ付御採用ヲ被ルニ於テハ官吏服務規律ヲ恪守仕ヘキハ勿論在監人ニ對シ決シテ相狎狎スルカ如キコトナク總テノ法律命令ヲ遵守シ職務上百般ノ責務ハ嚴正忠實ニ踐行仕ヘク又三箇年未満ニシテ一身ノ故ヲ以テ自ラ職ヲ御免 相願候様ノ儀ハ決シテ無之且ツ自己ハ勿論家族ニ至ル迄品行方正ニ相保チ監獄官吏タリ又ハ其ノ家族タ



明治三十九年九月一日

百十四

ル體面ヲ汚損致候様ノ所業決シテ仕間敷候依テ暫文如件

原籍府縣郡市町村番地身分

何

某印

年月日

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月一日

關東都督

府女監取

締採用規

則ヲ定ム

關東都督府女監取締採用規則

第一條 關東都督府女監取締ハ試驗ヲ經テ之ヲ採用ス但シ左ニ記載シタル者ハ體格ノミヲ檢査シテ採用スルコトヲ得

一 二年以上女監取締ノ職ニ在リタル者

二 官公立高等小學校又ハ之ト同等以上ト認ムル女學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第二條 女監取締志願者ハ品行方正年齢二十歳以上四十歳未満ニシテ左ノ各項ニ抵觸セサル者タルコトヲ要ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者

三 官吏ノ懲戒例規ニ依リ免職セラレ二年ヲ經過セサル者

四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散者タルノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

五 藝娼妓酌婦又ハ之ニ準スヘキ稼業ニ從事シタル者

第三條 女監取締志願者ハ其ノ願書ニ履歷書、戶籍謄本及第二條各號ニ對スル官公署ノ證明書ヲ添付スヘシ

有夫ノ者ニ在テハ夫ノ同意書ヲ添付スヘシ

第四條 女監取締採用試驗ヲ別テ體格檢査及學術試驗ノ二種トス

體格檢査ニ合格シタル者ニ非サレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 體格檢査ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 體質善良ニシテ嫌惡スヘキ疾患ナキ者

二 身幹四尺七寸以上ニシテ胸圍大約身長ノ半ニ等シク呼吸縮長ノ差一寸以上ノ者

三 兩眼共視力三分ノ二以上ニシテ辨色力完全ノ者

四 聽力六尺ノ距離ニ於テ低語ヲ聽識シ得ル者

五 言語應答明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者

六 精神完全ナル者即チ精神病又ハ神經病無キ者

第六條 學術試驗ハ左ノ諸項ニ適合スル者ヲ以テ合格トス

一 監獄法規ノ條文ヲ解讀シ得ル者

二 普通往復文及申告書ヲ作り得ル者

三 算術加減乗除ヲ解シ得ル者

四 裁縫ノ大要ニ通スル者

第七條 看守採用規則第七條乃至第十條ハ之ヲ女監取締ニ準用ス

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月一日

關東都督

府巡查採

關東都督府巡查採用規則

第一條 巡查ハ身體檢査及學術試驗ヲ經テ採用スルモノトス但シ左ノ各號ノ一ニ該ル者ハ學術試驗ヲ省略スルコトアルヘシ

明治三十九年九月一日

百十五

用規則ヲ定ム

- 一 滿一箇年以上巡查タリシ經歷ヲ有シ退職後滿五箇年以内ノ者
- 二 巡查精勤證書ヲ有スル者
- 三 陸軍現役滿期又ハ戰時召集ヲ解除セラレタル下士應兵科ハ上等兵以上ノ者若ハ下士適任證書ヲ有スル者
- 四 判任文官タリシ者又ハ文官任用令第三條ニ依リ判任文官タル資格ヲ有スル者
- 第二條 巡查ノ身體検査ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
  - 一 體質善良ニシテ較著ナル疾患ナキ者
  - 二 身體諸機關完具シ且其ノ機能健全ニシテ劇務ニ堪エ得ル者
  - 三 身幹五尺一寸以上胸圍約身長ノ半ニシテ呼吸縮張ノ差一寸以上ノ者
  - 四 視力及聽力共ニ完全ナル者
  - 五 言語明瞭ニシテ充分ノ發聲ニ堪ユル者
  - 六 容貌姿勢醜惡ナラサル者
- 第三條 巡查ノ學術試験ハ左ノ各號ニ適合スル者ヲ以テ合格トス
  - 一 刑法、刑事訴訟法及警察法規ノ大要ニ通スル者
  - 二 本邦ノ歴史及地理ノ大要ニ通スル者
  - 三 假名交リノ論文及普通往復文ヲ作り得ル者
  - 四 加減乗除ヲ爲シ得ル者
  - 五 普通ニ楷書及行書ヲ書キ得ル者
- 第四條 刑事專務ノ巡查ハ前條ノ試験ヲ經スシテ採用スルコトヲ得但シ學術試験ヲ經ルニ非サレハ普通警察事務ニ從事セシムルコトヲ得ス
- 第五條 巡查志願者ハ品行方正年齡二十一歳以上四十歳未滿ニシテ左ノ各號ニ抵觸セサル者

本年十月二十四日  
關東都督府令第二十六號ヲ以テ補訂アリ

九月一日

關東都督府巡查看守手當支給規則ヲ

- タルコトヲ要ス
- 一 重罪ノ刑又ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレ若ハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ單ニ監視ニ附セラレタル者若ハ輕禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後五箇年ヲ經過セサル者
  - 二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
  - 三 巡查看守懲罰例又ハ文官懲戒令ニ依リ官職ヲ免セラレ爾後滿二箇年ヲ經過セサル者
  - 四 身分不相應ノ負債アル者又ハ家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者
  - 五 豫戒命令ヲ受ケタル者
  - 六 酒癖又ハ暴行ノ癖アル者
  - 第六條 巡查志願者ヨリ徵スヘキ文書左ノ如シ
    - 一 巡查志願書(別記第一號書式ニ依ル)
    - 二 履歷書(別記第二號書式ニ依ル)
    - 三 戶籍吏ノ作りタル戶籍謄本
    - 四 市、區、町、村長ニ於テ第五條ニ抵觸セサルコトヲ證明シタル證書
  - 第七條 巡查ニ採用スヘキ者ト定リタルトキハ別記第三號書式ノ誓書ヲ徵スルモノトス  
〔別記書式略ス〕
- 關東都督府巡查看守手當支給規則
- 第一條 巡查看守ノ手當ハ別表ニ依リ之ヲ支給ス
  - 第二條 手當ハ新任又ハ復職ノ際ハ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ計算ス
  - 第三條 手當ハ廢廳、廢職、休職、死亡若ハ事務ノ都合ニ依リ免職シタルトキハ當月分ノ全額ヲ支給ス
  - 休職ノ當月復職シタルトキハ其ノ月ノ手當ハ更ニ之ヲ支給セス

定ム

- 第四條 手當ハ病氣又ハ私事ノ故障若ハ懲戒ニ依リ俸給ヲ減セラレタル場合ト雖仍全額ヲ支給ス
  - 第五條 手當ハ自己ノ便宜又ハ懲戒ニ依リ免職シタルトキハ日割ヲ以テ計算ス
  - 第六條 手當ハ計算上錢位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨ルモノトス
  - 第七條 本令ニ定ムルモノノ外關東都督府巡查看守俸給支給細則ニ依ル
- 附 則  
本規則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(別表)

關東都督府巡查看守手當月額表

職名/區分	關東州內	關東州外
看 守	十 五 圓 十 七 圓 二 十 圓 十 八 圓 八 圓	十 圓 十 圓 十 圓 十 圓 十 圓
巡 査	十 五 圓 十 七 圓 二 十 圓 十 八 圓 八 圓	十 圓 十 圓 十 圓 十 圓 十 圓

附記 奉天以南ニハ奉天撫順及新民廳ヲ含ム

奉天安東縣間ノ區分中安東縣ハ奉天ト同一ノ額ヲ支給ス

九月一日 警務署及支署ヲ置ク

南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ保護及取締ノ事務ヲ分掌セシムル爲南滿洲鐵道附屬地ニ警務署及支署ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ別ニ之ヲ定ム

九月六日 臺灣總督

- 臺灣總督府彩票委員會規則
- 臺灣彩票施行規則第十九條及第三十一條ノ事項

府彩票委員會規則ヲ定ム

- 一 臺灣總督府高等行政官 三人
  - 二 臺灣總督府法院判官 一人
  - 三 臺灣總督府法院檢察官 一人
  - 四 臺北廳長 一人
  - 五 資産名望アル者 三人
- 第四條 臺灣總督府彩票委員會ハ委員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ決議ヲ爲スコトヲ得ス決議ハ出席委員ノ過半數ニ依リ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ會長ノ決議ヲ爲スル所ニ依ル
- 第五條 會長事故アルトキハ其ノ指名シタル委員ヲシテ事務ヲ代理セシム
- 第六條 臺灣總督府彩票委員會ニ幹事一人ヲ置キ臺灣總督府彩票局長ヲ以テ之ニ充ツ
- 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第七條 臺灣總督府彩票委員會ニ書記ヲ置キ臺灣總督府彩票局書記中ニ就キ之ヲ命ス
- 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第八條 臺灣總督府彩票委員會ニ於テ審議ヲ了シタルトキハ其ノ結果ヲ臺灣總督ニ具申スヘシ

九月六日 臺灣總督

臺灣總督府彩票局

- 臺灣總督府彩票局規程
- 第一條 臺灣總督府彩票局ハ彩票ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
- 第二條 臺灣總督府彩票局ニ左ノ職員ヲ置ク

明治三十九年九月六日

規程ヲ定ム

局長  
主事  
書記

局長ハ臺灣總督府高等行政官中ニ就キ之ヲ命ス  
第三條 局長ハ臺灣總督ノ命ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ局員ヲ指揮監督ス  
第四條 主事ハ局長ノ命ヲ承ケ局務ヲ分掌ス  
第五條 書記ハ上司ノ命ヲ承ケ局務ニ從事ス

九月廿三日

旅順鎮守府條例ヲ定ム

旅順鎮守府條例

第一條 旅順ニ鎮守府ヲ置ク  
第二條 旅順鎮守府ハ關東州ノ海岸海面ノ警備、防禦ニ任シ所轄諸部ノ事務ヲ監督スル所トス  
第三條 旅順鎮守府ニハ必要ニ應シ艦隊驅逐隊艇隊及艦船ヲ附屬セシム  
第四條 旅順鎮守府ニ司令長官ヲ置ク  
司令長官ハ親補トス  
第五條 司令長官ハ  
天皇ニ直隸シ麾下ノ艦隊艦船部隊ヲ統率シ所屬各部ヲ監督シ府務ヲ總理ス  
司令長官ハ海軍大臣ノ命ヲ承ケ軍政ヲ掌ル  
第六條 司令長官ハ麾下ノ軍紀風紀及教育訓練ヲ統監ス  
第七條 司令長官ハ麾下ノ艦隊驅逐隊艇隊若ハ艦船ヲ所管海軍區及第三海軍區内ニ派遣シ又軍隊ヲ所管海軍區内ニ派遣スルコトヲ得

參謀長  
參謀  
副官

第八條 司令長官ハ旅順港ニ在ル他管ノ艦船ヲ指揮スルコトヲ得但シ他ノ司令長官司令官現在スルトキ其ノ麾下艦船ニ對シテハ此ノ限ニアラス  
第九條 司令長官ハ地方ノ安寧ヲ維持スル爲兵力ヲ使用スルノ必要ヲ認メ指揮ヲ待ツノ違ナキトキハ便宜兵力ヲ使用スルコトヲ得但シ其ノ旨直ニ海軍大臣ニ報告スヘシ  
第十條 司令長官ハ疾疫其ノ他緊急ノ場合ニ當リ一時麾下ノ兵員ヲ移轉セシムルヲ必要トスルトキハ之ヲ處分シテ後海軍大臣ニ報告スヘシ  
第十一條 司令長官ハ麾下ノ船舶ニ乗員ヲ要スルトキハ麾下人員ニ臨時乗組ヲ命スルコトヲ得  
第十二條 司令長官ハ麾下ノ候補生准士官並下士卒ヲ麾下艦船其ノ他各部ニ轉乗若ハ轉勤セシムルコトヲ得  
第十三條 司令長官ハ旅順港規則ノ施行ニ關シテハ所在憲兵ヲ指揮スルコトヲ得  
第十四條 司令長官ハ必要ニ應シ麾下ノ機關官軍醫官若ハ主計官ヲ麾下水雷艇隊ニ配置シ又ハ水雷艇ニ乗組マシムルコトヲ得  
第十五條 司令長官ハ麾下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ麾下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得  
第十六條 司令長官缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ所在麾下首席將校其ノ職務ヲ代理ス  
第十七條 旅順鎮守府ノ幕僚トシテ左ノ職員ヲ置ク  
參謀長  
參謀  
副官

機關長  
軍醫長  
主計長

前項ノ外機關官軍醫官及主理ヲ置ク

第十八條 參謀長ハ司令長官ヲ佐ケ幕僚ノ事務ヲ統ヘ府務ヲ整理ス

第十九條 參謀ハ參謀長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十條 副官ハ參謀長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第二十一條 機關長軍醫長主計長及主理ハ司令長官ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十二條 機關官ハ機關長ノ命ヲ承ケ軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第二十三條 第十七條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長相當官並准士官下士及判任文官ヲ置キ各

上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第二十四條 旅順鎮守府諸官衙部隊等ニ要スル兵員ノ配付ハ佐世保鎮守府ヲシテ之ヲ掌ラシ

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月廿二日

旅順海軍

港務部條

例ヲ定ム

旅順海軍港務部條例

第一條 旅順ニ海軍港務部ヲ置ク

第二條 旅順海軍港務部ハ旅順港水域ノ警衛、艦船ノ繫留、出入渠、浚渫船ノ使用、海標、運

輸、救難、防火等ノ事及旅順鎮守府司令長官ノ指定スル港灣防禦ノ一部ニ關スルコトヲ掌

第三條 旅順海軍港務部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

副官

部員

軍醫長

主計長

前項ノ外必要ニ應シ軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

第四條 部長ハ旅順鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス

第五條 部長ハ部下ノ職員ヲ所屬船舶ニ乗組マシムルコトヲ得

第六條 部長ハ部下ノ職員缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ他ノ部

下職員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第七條 部長缺員中若ハ事故アリテ其ノ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ部下首席將校其ノ職

務ヲ代理ス

第八條 副官ハ部長ノ命ヲ承ケ人事及庶務ヲ掌ル

第九條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十一條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル

第十二條 第三條第二項ノ職員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十三條 第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ

承ケ服務セシム

附 則

九月廿三日

旅順海軍  
工作部條  
例ヲ定ム

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅順海軍工作部條例

- 第一條 旅順ニ海軍工作部ヲ置ク
- 第二條 旅順海軍工作部ハ旅順鎮守府ニ屬シ艦船兵器ノ造修並兵器圖誌測器及經營需品ノ供給ヲ掌ル
- 第三條 大連ニ旅順海軍工作部支部ヲ置ク
- 第四條 旅順海軍工作部大連支部ハ艦船兵器ノ造修ヲ掌ル
- 部長
- 部員
- 軍醫長
- 主計長
- 旅順海軍工作部大連支部ニ左ノ職員ヲ置ク
- 支部長
- 部員
- 軍醫長
- 主計長
- 前二項ノ外必要ニ應シ軍醫及主計ヲ置クコトヲ得
- 第五條 部長ハ旅順鎮守府司令長官ニ懸シ部務ヲ總理ス
- 第六條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス

九月廿三日

旅順敷設  
隊條例ヲ  
定ム

- 第七條 軍醫長ハ部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル
- 第八條 主計長ハ部長ノ命ヲ承ケ會計給與並材料物品及經營需品ニ關スルコトヲ掌リ又庶務ヲ掌理ス
- 第九條 大連支部長ハ部長ノ命ヲ承ケ支部ノ事務ヲ掌理ス
- 第十條 大連支部部員ハ大連支部長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十一條 大連支部軍醫長ハ大連支部長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル
- 第十二條 大連支部主計長ハ大連支部長ノ命ヲ承ケ會計給與並材料物品ニ關スルコトヲ掌リ又庶務ヲ掌理ス
- 第十三條 第四條第三項ノ職員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十四條 第四條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒及書記技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第十五條 第二條及第三條ニ依リ工作部及同支部ニ於テ供給スル材料物品ハ必要ニ應シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ佐世保鎮守府ヨリ供給ヲ受クルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

旅順敷設隊條例

- 第一條 旅順ニ敷設隊ヲ置ク
- 第二條 旅順敷設隊ハ旅順鎮守府ニ屬シ水雷防禦及旅順港境域内守衛ノ事ヲ掌ル
- 第三條 旅順敷設隊ニ左ノ職員ヲ置ク
- 司令

分隊長  
機關長  
軍醫長  
主計長

前項ノ外必要ニ應シ機關尉官軍醫及主計ヲ置クコトヲ得

第四條 司令ハ旅順鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ及隊務ヲ掌理ス

第五條 司令ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ又ハ代理セシムルコトヲ得

第六條 司令缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス第七條 分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ各部署ノ長ト爲リ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ隊務ヲ整理シ且教育訓練ニ關スルコトヲ掌ル

第八條 機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ機關並其ノ主管ニ屬スル船體及兵器ニ關スルコトヲ掌ル

第九條 軍醫長ハ司令ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル

第十條 主計長ハ司令ノ命ヲ承ケ會計給與ヲ掌リ又庶務ヲ掌理ス

第十一條 第三條第二項ノ職員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月廿二日

旅順海軍病院條例ヲ定ム

旅順海軍病院條例

第一條 旅順ニ海軍病院ヲ置ク

第二條 旅順海軍病院ハ旅順鎮守府ニ屬シ治療並治療品ノ供給、被服糧食藥品等ノ衛生試験ヲ掌ル所トス

第三條 旅順海軍病院ニ左ノ職員ヲ置ク  
院長  
副院長

前項ノ外必要ニ應シ軍醫官藥劑官ヲ置ク

第四條 院長ハ旅順鎮守府司令長官ニ隸シ院務ヲ總理ス

第五條 副院長ハ院長ノ命ヲ承ケ院長ヲ補佐シ院務ヲ整理ス

第六條 第三條第二項ニ掲クル軍醫官藥劑官ハ院長ノ命ヲ承ケ服務ス

第七條 第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長相當官並准士官下士卒及書記ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第八條 第二條ニ依リ海軍病院ニ於テ供給スル治療品ハ必要ニ應シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ佐世保鎮守府ヨリ供給ヲ受クルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月廿二日

旅順海軍經理部條例

旅順海軍經理部條例

第一條 旅順ニ海軍經理部ヲ置ク

第二條 旅順海軍經理部ハ旅順鎮守府ニ屬シ會計經理、造兵造船ノ材料ニアラサル通常物品

例ヲ定ム

ノ供給、旅順鎮守府所管官衙及其ノ所屬艦船部隊ノ會計事務ノ監督、管区内ニ在ル艦船ノ金糧物件及帳簿ノ監査、被服糧食ノ供給並官有財産建築土木ニ關スルコトヲ掌ル

部長

第三條 旅順海軍經理部ニ左ノ職員ヲ置ク  
部長  
部員

第四條 部長ハ旅順鎮守府司令長官ニ隸シ部務ヲ掌理ス但シ會計事務ノ監督及金糧物件帳簿ノ監査ニ就テハ海軍大臣ニ直隸ス

第五條 部員ハ部長ノ命ヲ承ケ服務ス  
第六條 第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長相當官准士官下士及書記技手ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第七條 第二條ニ依リ海軍經理部ニ於テ供給スル材料物品ハ必要ニ應シ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ佐世保鎮守府ヨリ供給ヲ受クルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月廿三日

常設海軍軍法會議

ニ於ケル主理録事ノ定員ヲ

明治三十三年勅令第百五號中左ノ通改正ス  
別表中舞鶴鎮守府軍法會議ノ欄ノ下ニ左ノ如ク加フ

旅順鎮守府	二
軍法會議	二

補訂ス

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

九月廿二日

旅順海軍監獄官制

監獄官制ヲ定ム

旅順海軍監獄官制

第一條 旅順港ニ海軍監獄ヲ置ク

第二條 旅順海軍監獄ハ現役又ハ召集中ノ海軍軍人、生徒其ノ他海軍ニ従事スル者ニシテ輕罪以下ノ刑ニ處セラレタル者及刑事被告人ヲ拘禁留置スル所トス

第三條 旅順海軍監獄ニ左ノ職員ヲ置ク  
海軍監獄長  
主理ヲシテ兼務セシム

海軍監獄書記  
專任一人 判任

海軍監獄看守長  
專任二人 判任

第四條 監獄長ハ旅順鎮守府司令長官ニ隸シ部下ノ官吏ヲ指揮監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス  
第五條 監獄書記ハ監獄長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 監獄看守長ハ監獄長ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ部下ノ監獄看守ヲ指揮監督ス  
第七條 旅順海軍監獄ニ監獄看守五人ヲ置ク判任ノ待遇トス上官ノ命ヲ承ケ看守、護送及門衛等ノ事務ニ服ス

第八條 旅順海軍監獄ノ醫務衛生ニ關スル事項ハ旅順海軍病院附海軍軍醫ヲシテ管掌セシメ之ニ該病院附海軍看護手及看護ヲ附ス

第九條 旅順鎮守府司令長官ハ監獄職員ノ缺員中又ハ必要アル場合ニ於テハ部下ノ軍人、軍屬ヲシテ其ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス



九月廿五日

巡查給與令ヲ定ム

- 巡查給與令
- 第一條 巡查ノ月俸ハ十二圓乃至二十圓トス但シ巡查部長タル巡查ニハ二十五圓迄ヲ給スルコトヲ得
  - 第二條 初メテ巡查ヲ命セラルル者ノ月俸ハ十五圓以下トス
  - 判任官以上ノ官職ニ在リタル者又ハ巡查ノ職ニ在リタル者カ巡查ヲ命セラレタル場合ニハ第一條ニ定メタル範圍内ニ於テ其ノ前俸給額以内ノ月俸ヲ給スルコトヲ得
  - 第三條 月俸ノ増給ハ三圓ヲ超ユルコトヲ得ス
  - 十五圓以上ノ月俸ヲ受クル巡查ニハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス十五圓未滿ノ月俸ヲ受クル巡查ニシテ十五圓以上ニ増給スル場合亦同シ
  - 第四條 巡查部長タル巡查及刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡查ニハ第二條及第三條ヲ適用セス
  - 第五條 休職巡查ニシテ陸海軍ヨリ受クル俸給又ハ給料ノ月額休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以内ノ休職給ヲ給スルコトヲ得
  - 第六條 刑事通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル巡查ニハ一箇月二十圓以内ノ特別手當ヲ給スルコトヲ得
  - 第七條 非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル巡查ニハ一日五十錢以内ノ勤務手當ヲ給スルコトヲ得
  - 第八條 訓練中ノ巡查ニハ一箇月七圓以内ノ訓練手當ヲ給スルコトヲ得
  - 第九條 巡查ニハ一箇月五圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得
  - 第十條 月俸ハ新任、増俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ

- 其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ全額ヲ給ス
- 一 職務上ノ傷痍又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者
  - 二 廢應ノ爲退職シタル者
  - 三 身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者
  - 四 休職ヲ命セラレタル者
  - 五 在職中死亡シタル者
- 休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス
- 第十一條 休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス
  - 休職給、手當金及宿料ノ給與ニ關スル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム
  - 第十二條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ月俸ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス

附 則

- 第十三條 地方ノ狀況ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ得テ當分ノ内巡查ニ最下俸以下九圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得
- 第十四條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル月俸額及特別手當ヲ給セララルモノトス
- 第十五條 巡查看守俸給令及明治二十八年勅令第五百五十九號ハ之ヲ巡查ニ適用セス

九月廿六日

理事廳支

理事廳支應分掌規程

- 第一條 理事廳支應ハ必要ニ應シ理事廳管轄區域内ニ之ヲ置ク

廳分掌規程ヲ定ム

第二條 理事廳支廳ニ副理事官又ハ警視一名及判任以下若干名ヲ置ク

第三條 前條ノ副理事官又ハ警視ハ特ニ統監ノ命ヲ承ケ韓國地方施政ノ改善ニ關スル事務ヲ掌ル

九月廿九日

地方産業ニ關スル

第一條 本令ニ於テ地方産業ニ關スル技師、技手並試驗場、講習所及種畜場ト稱スルハ北海道地方費、府縣費又ハ郡市費ヲ以テ常置スルモノヲ謂フ

第二條 地方産業ニ關スル技師及技手ハ之ヲ農業技師、工業技師、林業技師、水産技師、農業技手、工業技手、林業技手及水産技手トス

第三條 試驗場、講習所及種畜場ノ職員左ノ如シ

技師

技手

書記

場長又ハ所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ但シ技手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第四條 地方産業ニ關スル技師並試驗場、講習所及種畜場ノ技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

地方産業ニ關スル技手並試驗場、講習所及種畜場ノ技手、書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

第五條 前條奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免、奏薦及宣行ハ高等官官等俸給令第四條、第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

舊制ヲ廢ス

第六條 技師及技手ハ特別ノ學術技藝アル者ヨリ之ヲ任用スヘシ

第七條 地方産業ニ關スル技師、技手並試驗場、講習所及種畜場職員ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

奏任文官若ハ判任文官又ハ之ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニシテ同時ニ地方産業ニ關スル技師、技手又ハ試驗場、講習所及種畜場職員ニ任用セラレタル者ノ官等等級配當方ハ本官官等等級又ハ本務ニ於テ配當セラレタル官等等級ニ依ル

本令ニ依リ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附 則

明治三十一年勅令第三百四十八號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ農事巡回教師、工業巡回教師、林業巡回教師及水産巡回教師ノ職ニ在ル者ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ農業技師、工業技師、林業技師及水産技師ニ、判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニ在リテハ農業技手、工業技手、林業技手及水産技手ニ各辭令ヲ用キス任セラレタルモノトス

(別表)

地方産業ニ關スル技師並試驗場、講習所及種畜場ノ技師官等配當表

五 等		六 等		七 等		八 等	
年俸	千四百圓以上	年俸	千二百圓以上 千四百圓未満	年俸	八百圓以上 千二百圓未満	年俸	六百圓以上 八百圓未満

地方産業ニ關スル技手並試験場、講習所及種畜場ノ技手、書記等級配當表	列				
	一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
地方産業ニ關スル技手並試験場ノ技手	月俸六十圓以上	月俸四十五圓以上	月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上	月俸二十五圓未滿
地方産業ニ關スル講習所及種畜場ノ技手	月俸六十圓以上	月俸四十五圓未滿	月俸三十五圓未滿	月俸二十五圓以上	月俸二十五圓未滿
地方産業ニ關スル講習所及種畜場ノ書記			月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上	月俸二十五圓未滿

九月廿九日勅令第六十八號

地方産業ニ關スル技手並試験場、講習所及種畜場職員ノ休職ニ關シテハ明治三十七年勅令第百一十一號ノ規定ヲ準用ス

十月一日勅令第七十號  
海軍望樓條例ヲ補訂ス

海軍望樓條例中左ノ通改正ス  
第四條中「所管鎮守府望樓監督官」ノ下ニ「(旅順鎮守府ニ在テハ參謀長)」ヲ加フ

本條例ハ三十八年十二月七日勅令第百五十四號ヲ以テ改ムル所

本令ハ三十七年一月二十一日勅令第六號ヲ以テ定ムル所

十月一日勅令第七十號  
海軍給與令ヲ補訂ス

海軍給與令中左ノ通改正ス  
第二十七條中第二項ヲ削リ第三項ヲ左ノ如ク改ム  
在役驅逐艦、在役水雷艇、在役潛水艇及淺吃水砲艦ニ乗員ニハ第七表ニ依リ加俸ヲ給ス豫備驅逐艦、豫備水雷艇及豫備潛水艇ノ乗員ニハ定繁港外航海中亦同シ  
第二十八條中「未成水雷艇」ノ下ニ「未成潛水艇」ヲ加フ  
第六表末欄中第二號、第四號及第六號ヲ削リ「第三號」ヲ「第二號」ニ、「第五號」ヲ「第三號」ニ改ム  
第七表ヲ左ノ如ク改ム

第七表 驅逐艦、水雷艇、潛水艇及淺吃水砲艦航海加俸表

官 職 別	定 額	日 額		額	
		本 邦 沿 岸	清 韓 亞 細 亞 領 南 洋 沿 岸	東 經 九 十 度 以 東 西 經 百 度 以 西	東 經 九 十 度 以 西 東 經 三 十 度 以 西
大 佐 司 令	一圓二十錢	一圓二十錢	二圓二十五錢	四圓五十錢	六圓
中 佐 司 令	一圓	一圓二十錢	一圓八十錢	三圓六十錢	四圓八十錢
少 佐 司 令	八十五錢	一圓	一圓五十錢	三圓	四圓
少 佐 艦 艇 長	六十錢	一圓	一圓五十錢	三圓	四圓
中 佐 及 相 當 官	五十錢	八十錢	一圓二十錢	二圓四十錢	三圓二十錢
大 尉 艦 艇 長	四十五錢	七十錢	一圓五十錢	二圓十錢	二圓八十錢
少 佐 及 相 當 官	四十錢	七十錢	一圓五十錢	二圓十錢	二圓八十錢

大軍醫軍醫長	四十錢	六十錢	九十錢	一圓八十錢	二圓四十錢	三圓
大主計主計長	三十五錢	五十錢	七十五錢	一圓五十錢	二圓	二圓五十錢
大尉及相當官	三十錢	四十錢	六十錢	一圓二十錢	一圓六十錢	二圓
中少尉及相當官	二十錢	三十錢	四十五錢	九十錢	一圓二十錢	一圓五十錢
候補生及准士官	十錢	十五錢	三十錢	四十錢	五十錢	
下士	六錢	九錢	十二錢	十八錢	二十四錢	三十錢
一、二等卒						
三、四等卒						
五等卒						

一、大西洋亞米利加洲沿岸ニ於テハ第六欄ノ額ヲ給ス  
 二、旅順港及馬公要港ニ於テハ第一欄ノ加俸ヲ給スル場合ニ限リ驅逐隊司令タル大佐ニハ一圓八十錢、艇隊司令タル中佐ニハ一圓五十錢、少佐ニハ一圓二十八錢、驅逐艦長及艇長タル少佐ニハ九十錢、大尉ニハ六十八錢、驅逐隊軍醫長タル大軍醫及同主計長タル大主計ニハ六十錢、其ノ他ノ者ニハ第六表第二欄ノ額ヲ給ス  
 三、准士官以上及一等下士ニ上官ノ職務心得ヲ命シタルトキハ上官ノ額ヲ給ス  
 四、司令又ハ艦艇長ニシテ定員表中兩官等ニ跨ル場合ニ於テ下級者ヲ以テ補シタルトキハ上級者ノ額、上官ノ職務心得ノ者ヲ以テ補シタルトキハ下級者ノ額ヲ給ス  
 五、潜水艇乘員タル准士官以上及候補生ニハ本表金額ノ二倍、下士卒ニハ本表金額ノ三倍ヲ給ス但シ機關長タル機關少佐ハ大尉艦艇長ノ額、機關大尉ハ大軍醫軍醫長ノ額ニ依ル

十月一日 勅令  
遞信省部  
内ノ官吏  
ニシテ戰

時ニ際シ  
所屬部局  
以外ニ於  
テ臨時遞  
信ノ事務  
ニ從事シ  
又ハ陸海  
軍特設ノ  
事務ニ從  
事シタル  
者ノ復歸  
ニ關スル  
件ヲ補訂  
ス

十月八日 勅令  
圖書館令  
ヲ補訂ス

本令ハ三十二年十  
一月十日勅令第四  
百二十九號ヲ以テ  
定ムル所

明治三十八年勅令第二百二十一號中「本令施行後一箇年」ヲ「明治四十年三月三十一日迄」ニ改ム

圖書館令中左ノ通改正ス

第六條 公立圖書館ニ館長、司書及書記ヲ置クコトヲ得

館長及司書ハ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケ書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

第六條ノ二 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 高等文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者

二 學位ヲ有シ又ハ官立學校ヲ卒業シ學士ノ稱號ヲ有スル者ニシテ一年以上教育又ハ圖書

ニ關スル公務ニ従事シタル者

三 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シ月額四十圓以上ノ俸給ヲ受クル判任文官以上又ハ判任文官待遇以上ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

第六條ノ三 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長、司書及書記ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ヨリ之ヲ任用ス

一 判任文官ト爲ルノ資格ヲ有スル者

二 三年以上教育又ハ圖書ニ關スル公務ニ従事シタル者

第六條ノ四 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ノ任免奏薦及宣行ハ高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長、司書及書記ノ任免ハ地方長官之ヲ行フ

第六條ノ五 館長又ハ司書ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等配當ハ明治二十五年勅令第三十九號中奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル中學校教諭ノ例ニ依リ館長、司書又ハ書記ニシテ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ等級配當ハ同令中中學校助教諭ノ例ニ依ル

十月十一日

陸軍參謀  
及高等官  
衙副官ノ  
補職方ヲ  
定ム

明治三十九年十一月陸軍大學校ヲ卒業スル將校ハ陸軍參謀條例第三條第一項及陸軍高等官衙副官條例第三條ノ規定ニ據ラス卒業後直ニ參謀若ハ高等官衙副官ノ職ニ補スルコトヲ得

奏任及判任待遇監獄職員給與令

十月十一日

逕查看守俸給令ハ  
三十年五月十八日  
勅令第四百十九號  
ヲ以テ定ムル所

奏任及判  
任待遇監  
獄職員給  
與令ヲ定  
メ逕查看  
守俸給令  
ヲ廢ス

第一條 監獄醫、教誨師、教師及醫劑師ノ俸給ハ別表ニ依ル但シ月俸三十圓未満ノ者ニ限リ各所定ノ最低俸給額ヲ下ラサル範圍内ニ於テ適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ給スルコトヲ得

看守ノ月俸ハ十二圓乃至二十圓トス但シ看守部長タル看守ニハ二十五圓迄ヲ給スルコトヲ得

教習中ノ看守ノ月俸ハ九圓乃至十一圓トス

女監取締ノ月俸ハ八圓乃至十五圓トス但シ女監取締部長タル女監取締ニハ二十圓迄ヲ給スルコトヲ得

第二條 奏任待遇ヲ受クル監獄醫又ハ教誨師ニシテ一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ハ監獄醫ニ在リテハ千八百圓、教誨師ニ在リテハ千二百圓迄増給スルコトヲ得

判任待遇ヲ受クル監獄醫、教誨師、教師又ハ藥劑師ニシテ一級俸ヲ受ケ五年ヲ踰エ事務練熟優等ナル者ハ監獄醫ニ在リテハ百圓、教誨師、教師ニ在リテハ七十五圓、藥劑師ニ在リテハ五十圓迄増給スルコトヲ得

第三條 初メテ監獄醫、教誨師、教師又ハ藥劑師ヲ命セラルル者ノ俸給ハ各其ノ五級俸以下、看守又ハ女監取締ヲ命セラルル者ノ月俸ハ各十五圓又ハ十一圓以下トス但シ醫務所長又ハ教務所長ヲ命セラルル者ニ在リテハ四級俸迄ヲ給スルコトヲ得

監獄醫、教誨師、教師又ハ藥劑師ノ職ニ在リタル者カ監獄醫、教誨師、教師又ハ藥劑師ヲ命セラルル場合ニハ第一條及第二條ニ定メタル範圍内ニ於テ前俸給額以内ノ俸給ヲ給スルコトヲ得

判任官以上ノ官職ニ在リタル者、看守又ハ女監取締ノ職ニ在リタル者カ看守又ハ女監取締ヲ命セラルル場合ニハ第一條ニ定メタル範圍内ニ於テ前俸給額以内ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

- 第四條 監獄醫、教誨師、教師又ハ藥劑師ニシテ別表四級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ハ一箇年ヲ經過スルニ非サレハ昇級スルコトヲ得ス  
看守及女監取締ノ月俸ノ増給ハ三圓ヲ超ユルコトヲ得ス  
十五圓以上ノ月俸ヲ受クル看守及十一圓以上ノ月俸ヲ受クル女監取締ニハ六箇月ヲ經過スルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス十五圓又ハ十一圓未滿ノ月俸ヲ受クル看守又ハ女監取締ニシテ十五圓又ハ十一圓以上ニ増給スル場合亦同シ
- 第五條 看守部長タル看守、女監取締部長タル女監取締及通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル看守及女監取締ニハ第三條及第四條ヲ適用セス
- 第六條 休職看守ニシテ陸軍又ハ海軍ニ於テ受クル俸給又ハ給料ノ月額休職ヲ命セラレタル當時ノ月俸額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ニ相當スル金額以内ノ休職給ヲ給スルコトヲ得
- 第七條 通譯其ノ他特別ノ技能ヲ有スル看守又ハ女監取締ニハ一箇月二十圓以内ノ特別手当ヲ給スルコトヲ得
- 第八條 非番ノ日ニ於テ臨時勤務ニ服シタル看守及女監取締ニハ一日五十錢以内ノ勤務手当ヲ給スルコトヲ得
- 第九條 看守及女監取締ニハ一箇月五圓以内ノ宿料ヲ給スルコトヲ得
- 第十條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ給ス
- 第十一條 月俸ハ新任、増俸、減俸及復職ノ場合ニ於テハ其ノ翌日ヨリ、退職ノ場合ニ於テハ其ノ當日迄日割ヲ以テ給ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ月俸額ノ全額ヲ給ス  
一 職務上ノ傷痕又ハ疾病ニ因リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタル者  
二 廢廳ノ爲退職シタル者

- 三 身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者
  - 四 休職ヲ命セラレタル者
  - 五 在職中死亡シタル者
  - 休職當月復職シタル者ニハ其ノ月ノ月俸ハ更ニ之ヲ給セス
  - 第十二條 休職給ハ休職ノ翌月ヨリ之ヲ給ス
  - 第十三條 病氣ノ爲執務セサルコト六十日ヲ踰ユル者又ハ私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト二十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス但シ公務ノ爲傷痕ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 附 則
- 第十四條 地方ノ狀況ニ依リ當分ノ内看守ニ最下俸以下九圓迄女監取締ニ最下俸以下六圓迄ノ月俸ヲ給スルコトヲ得
  - 第十五條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給及特別手当ヲ給セララルモノトス
  - 第十六條 巡查看守俸給令及明治二十八年勅令第百五十九號ハ之ヲ廢止ス

奏任待遇年俸

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
監獄醫	千二百圓	千	四百	四百	四百	四百	四百	四百
教誨師	九百	八百	七百	六百	五百	五百	五百	四百

判任待遇月俸

	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級
監獄醫	七十五	四十六	四十五	四十四	四十四	三十五	三十四	三十四	三十二	二十四
教諭師	五十	四十四	三十五	三十四	三十四	三十四	二十四	十八	十六	十四
藥劑師	四十	三十五	三十四	三十四	二十五	二十四	十八	十六	十四	十四

十月廿四日 關東都督府巡查看守手當支給規則ヲ補訂ス

明治三十九年九月府令第二十一號關東都督府巡查看守手當支給規則中左ノ通改正ス  
 第三條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
 職務上ノ傷痕又ハ疾病ニ由リ其ノ職ニ堪ヘズ退職シタルトキ亦前項ニ同シ

十月廿六日 寬城子停車場問題實地調査委員ヲ置ク

(各通)  
 陸軍少將 中村 愛三  
 鐵道技師 古川 阪次郎  
 總領事 萩原 守一  
 寬城子停車場問題實地調査委員被仰付 陸軍工兵大尉 靜 間 知 次

十月廿九日 憲兵條例ヲ補訂シ 韓國ニ駐

憲兵條例中左ノ通改正ス  
 第二條 憲兵ハ其ノ職務ノ執行ニ付軍事警察ニ係ルモノハ陸軍大臣及海軍大臣、行政警察ニ係ルモノハ内務大臣、司法警察ニ係ルモノハ司法大臣ノ指揮ヲ承ク臺灣及南滿洲ニ於ケル軍事警察、行政警察、司法警察ニ係ルモノハ臺灣總督又ハ關東都督、韓國ニ於ケル軍事警察

本條例ハ三十一年十一月二十九日勅令第三百三十七號ヲ以テ改ムル所

割スル憲兵ノ行政警察及司法警察ニ關スル件ヲ廢ス

ニ係ルモノハ韓國駐劄軍司令官、其ノ行政警察司法警察ニ係ルモノハ統監ノ指揮ヲ承ク  
 第三條第一項中「及檢事」ヲ「檢事、臺灣總督府廳長、同法院檢察官、關東都督府民政署長、同法院檢察官、理事廳理事官及統監府法務院檢察官」ニ改メ但書ヲ削ル  
 同條第二項及第三項ヲ左ノ如ク改ム  
 憲兵ハ要塞地帯ニ關スル法令ノ施行ニ付テハ要塞司令官又ハ其ノ職務ヲ行フ官廳、軍港要港規則及旅順港規則ノ施行ニ付テハ鎮守府司令長官若ハ要塞部司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ要塞部司令官ノ職務ヲ行フ官廳ノ指示ヲ承ク  
 憲兵ハ地方守備ニ關スル軍事警察ニ付テハ臺灣ニ在テハ臺灣守備混成旅團長 旅團長アラサ守備南滿洲及韓國ニ在テハ師團長 師團長アラサル地ニ在テハ師團長ハ其ノ地駐劄ノ軍隊長ノ指示ヲ承ク  
 第六條第二項但書ヲ削ル  
 第七條第三項ヲ左ノ如ク改ム  
 臺灣、南滿洲及韓國ニ於ケル憲兵隊本部ノ位置並分隊ノ配置及其ノ管區ハ臺灣總督、關東都督及韓國駐劄軍司令官之ヲ定ム  
 第十二條中「及臺灣總督」ヲ「臺灣總督、關東都督及韓國駐劄軍司令官」ニ改ム  
 第二十條中「臺灣總督」ノ下ニ「南滿洲」ニ在テハ關東都督、韓國ニ在テハ韓國駐劄軍司令官ヲ加フ  
 憲兵隊管區表中備考ヲ削リ末尾ニ左ノ如ク加フ

第十三憲兵隊管區	臺 灣
第十四憲兵隊管區	韓 國
第十五憲兵隊管區	南滿洲

附 則

十月廿九日

滿洲韓國  
樺太駐劄  
陸軍部隊  
給與令ヲ  
定メ韓國  
駐劄陸軍  
部隊給與  
方ヲ廢ス

滿洲韓國樺太駐劄陸軍部隊給與令

- 第一條 滿洲韓國樺太ニ駐劄スル陸軍部隊及之ニ屬スル軍人軍屬ノ給與ハ本令ニ依ル軍人軍屬以外ノ者ニシテ本令中特ニ定メタル者ノ給與亦同シ
- 第二條 軍隊外ノ委任經理ニ係ル給與ニ關シテハ陸軍給與令ノ規定ヲ適用ス
- 第三條 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ノ俸給又ハ給料ハ之ヲ減給セサルヲ例トス
- 第四條 准士官以上營外居住下士以下及軍屬ニハ俸給又ハ給料ノ十分ノ三營内居住下士以下ニハ給料ノ十分ノ五ヲ増給ス但シ傭人ニ在リテハ陸軍大臣ノ定メタル者ニ限ル
- 第五條 豫備役、後備役又ハ補充兵役ニ在リテ勤務演習ノ爲召集中ノ者ニハ増給ヲ給セス
- 第六條 軍人軍屬ニハ糧食ヲ給ス其ノ區分ハ左ノ各號ニ依ル但シ雇員傭人ニ在リテハ陸軍大臣ノ定メタル者ニ限ル
- 一 匪徒鎮壓等ノ爲行動ヲ爲ス場合ニハ現品ヲ所屬部隊ニ交付ス
- 二 軍隊下士以下ニ在リテハ現人員ニ應シ定額ヲ該隊ニ交付ス
- 三 傷痍疾病ノ爲入院中ノ者ニ在リテハ現人員ニ應シ定額ヲ病院ニ交付ス
- 四 未決監既決監ニ入監中ノ者ニ在リテハ現人員ニ應シ定額ヲ監獄ニ交付ス監獄ニ於テ營倉處分執行中ノ者亦同シ
- 五 第一號乃至第四號ニ屬セサル者ニハ食料ヲ給ス但シ時宜ニ依リ現品ヲ給スルコトヲ得

軍人軍屬以外ノ者ニシテ糧食ヲ給與スルノ必要アルトキハ前項ニ準シ之ヲ給スルコトヲ得

- 第六條 馬糧ハ現品ヲ給ス但シ乘馬本分者ノ馬匹ニ係ル馬糧ハ代金ノ以テ給スルコトヲ得
- 第七條 乘馬本分者ノ馬匹ニ係ル繫畜料ハ之ヲ停止シ該馬匹ノ繫畜ニ要スル諸費ハ官費トス
- 第八條 馬匹ニ係ル歸還シタル上之ヲ給シ馬匹購買料及馬匹保續料ハ之ヲ支給セス
- 第九條 馬匹ニ係ル裝蹄剔毛其ノ他器具ノ保續等ハ總テ實費トス
- 第十條 下士以下所要ノ被服及駐劄部隊備附ノ被服ハ現品ヲ以テ交付シ其ノ保續ニ係ル諸費ハ實費トス
- 第十條 軍屬ニハ陸軍大臣ノ定メタル者ニ限リ所要ノ被服ヲ支給又ハ貸與ス但シ現品ニ代ヘ被服料ヲ給スルコトヲ得
- 第十一條 軍人軍屬ニハ必要ニ應シ宿舍及家具ヲ貸與シ防塞用薪炭ヲ支給スルコトヲ得
- 第十二條 軍隊ノ消耗品ハ總テ現品ヲ給ス
- 第十三條 軍隊ノ陣營具ハ初度現品ヲ備附ケ其ノ保續ニ要スル費用ハ實費トス
- 第十四條 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル軍人軍屬ノ藥餌ハ總テ官給ス軍人軍屬以外ノ者ト雖時宜ニ依リ官給スルコトヲ得
- 第十五條 軍人軍屬死亡シ官ニ於テ埋葬スルトキハ其ノ埋葬又ハ遺骨遺物等輸送ニ係ル諸費ハ官費トス
- 第十六條 軍人軍屬以外ニシテ前項ノ必要アルトキ亦同シ
- 第十七條 駐劄部隊ニ屬スル者ニ非サルモ公務ヲ以テ駐劄地ニ往復スル軍人軍屬ノ給與ハ本令ヲ適用ス但シ第四條ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十八條 糧食及馬糧ノ定額、本令ニ依リ給與スル物件ノ種類、員數、保存期限並給與ノ支給區分、停止及減額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

附 則



本令ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十二年勅令第二百二十五號ハ之ヲ廢止ス

十月廿九日 勅令 三八〇

關東州在勤者海軍給與令ヲ定ム

關東州在勤者海軍給與令

- 第一條 關東州ニ在勤スル海軍軍人軍屬ノ給與ハ海軍給與令其ノ他別ニ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依ル軍人軍屬以外ノ者ニシテ本令中特ニ定メタル者ノ給與亦同シ
- 第二條 下士卒傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在勤地ニ於テ入院若ハ療養ヲ爲ストキハ海軍給與令第十二條第一項第二號及第三號ノ規定ヲ適用セス
- 第三條 軍人軍屬ニハ左ノ區別ニ從ヒ其ノ俸給及給料ヲ増給ス
  - 一 准士官以上、候補生及文官ニハ俸給十分ノ三
  - 二 下士卒ニハ俸給十分ノ五但シ陸上勤務外宿中ノ者ニ限リ十分ノ三
  - 三 雇員傭人ニハ給料十分ノ三但シ艦營傭人ニ限リ十分ノ五
- 准士官以上及一等下士ニシテ上官ノ職務心得ヲ命セラレタル者ニハ其ノ増給ヲ加算シタル額ニ就キ増給ス
- 第四條 准士官以上待命、休職、停職、豫備役、後備役、退役、免官若ハ廢官ト爲リ又ハ召集ヲ解カレ及文官休職、免官又ハ廢官ト爲リ事務引繼殘務調理ニ從事スルトキハ其ノ事務ヲ了リタル日迄仍在職又ハ召集中ノ例ニ依リ増給ス
- 第五條 軍人軍屬私事ヲ以テ關東州ヲ離ルルトキ、公務ニ原因スルニ非スシテ傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ關東州以外ニ於テ入院若ハ轉地療養ヲ爲ストキ、所在不明ト爲リタルトキ又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキ及留置、收禁、處刑、處罰中又ハ被告事件ノ爲護送中ハ其ノ間増給ヲ停止ス但シ被告事件不起訴、免訴若ハ無罪ニ歸

シタルトキ、被告事件繫屬中死亡シタルトキ又ハ准士官以上及候補生處罰中勤務ニ服スルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 軍人及文官傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在勤地ニ於テ入院若ハ療養ヲ爲ストキハ其ノ原因故意ニ出テタル場合ヲ除クノ外海軍給與令第三十一條第一項及第三十五條第一項ノ規定ヲ適用セス

第七條 軍人軍屬ニハ宿舍手當ヲ給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ海軍給與令第四十一條ノ手當ハ之ヲ給セス

前項手當ノ給額ハ海軍大臣之ヲ定ム

第八條 軍人軍屬所在不明ト爲リタルトキ又ハ擅ニ職役ヲ離レ若ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキハ其ノ間前條ノ手當ヲ停止ス

第九條 衛生上被服物品ヲ軍人軍屬ニ給與スルノ必要アルトキハ適宜之ヲ給スルコトヲ得軍人軍屬以外ノ者ニ給與スルノ必要アルトキ亦同シ

下士卒ニハ必要ニ應シ海軍給與令第十三表ニ掲クル被服物品ノ箇數ヲ適宜増加シ交付スルコトヲ得

第十條 軍人軍屬ニハ糧食ヲ給ス

軍人軍屬以外ノ者ニ糧食ヲ給與スルノ必要アルトキハ海軍大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ給スルコトヲ得

第十一條 准士官以上、候補生、文官及文官待遇者ニ糧食ヲ給スル場合ニ於テ各別ニ炊爨セシムル必要アルトキハ食數ニ應シ食料ヲ給シ糧食ヲ自辨セシムルコトヲ得

第十二條 前條ノ場合並關東州ニ於テ海軍給與令第八十六條、第八十七條及第八十八條ヲ適用スル場合ノ食料ニシテ同令第八十九條ノ平均價格ニ依リ難キトキハ海軍大臣適宜之ヲ定

十月卅日  
外國政府  
ニ聘用セ  
ラレタル  
判事檢事

ムルコトヲ得

第十三條 准士官以上、候補生及軍屬傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在勤地ニ於テ治療ヲ受クルトキハ其ノ費用ハ官費支辨トス軍人軍屬以外ノ者ニ在リテモ時宜ニ依リ官費支辨ト爲スコトヲ得

第十四條 軍人軍屬死亡シ在勤地ニ於テ埋葬スルトキハ其ノ費用ハ官費支辨トス軍人軍屬以外ノ者ニ在リテモ時宜ニ依リ官費支辨ト爲スコトヲ得

第十五條 前項死亡者ノ遺物ヲ内地ニ送還スルトキハ之ニ要スル費用ハ官費支辨ト爲スコトヲ得

第十六條 軍人軍屬ノ俸給及給料ハ之ヲ其ノ家族ニ下渡スコトヲ得

第十七條 第一條乃至第六條及第九條乃至第十五條ノ規定ハ關東州ニ在ル官衙部隊所屬艦船ノ乘員ニ、第二條第六條第十三條及第十四條ノ規定ハ關東州ニ航海中ノ艦船乘員及出張中ノ者ニ之ヲ準用ス

第十八條 軍人軍屬ニ要スル筆紙墨文具及暖房用燃料等ノ消耗品ハ現品ヲ以テ之ヲ給與スルコトヲ得軍人軍屬以外ノ者ニ給與スルノ必要アルトキ亦同シ

第十九條 本令ニ依ル給與ハ海軍大臣ニ於テ適宜減給又ハ停止スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十九年十一月十六日ヨリ之ヲ施行ス

在職判事檢事ニシテ許可ヲ受ケ外國政府ニ聘用セラレタル者ハ聘用中及其聘用ノ終リタル後職員ナキ間之ヲ定員外トス

前項ノ判事檢事ニ對シ必要アルトキハ特ニ在職者ニ關スル規定ヲ適用スルコトヲ得

二關スル  
件ヲ定ム

前二項ノ場合ニ於テ俸給ハ之ヲ停止シ旅費ハ之ヲ支給セス

十月卅一日  
公立圖書  
館職員ノ  
俸給ヲ定  
ム

公立圖書館職員ノ俸給ニ關シテハ公立學校職員俸給令ヲ準用ス但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ノ年俸ハ同令第二號表中教諭ノ例ニ依リ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル館長及司書ノ月俸ハ同令第三號表中中學校教諭ノ例、書記ノ月俸ハ同表中中學校書記ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸ヲ受ク

現ニ公立學校職員俸給令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給スルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最モ近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做ス

十一月三日  
皇族職員  
官等ヲ補  
訂ス

明治二十二年七月宮内省達第十一號中諸王家ノ註「朝香宮」ノ次ニ「東久邇宮」ヲ加フ

○十一月三日 宮内省告示

稔彦王殿下ニ東久邇宮ノ稱號ヲ賜フ

十一月五日  
海軍給與  
令ヲ補訂  
ス

海軍給與令中左ノ通改正ス

第一表中大佐及相當官、中佐及相當官並少佐及相當官ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

大佐及相當官	中佐及相當官	少佐及相當官
二千四百九十	千八百九十八	千二百七十七
六圓六十錢	四	四五十錢

本令ハ三十七年一月二十一日勅令第六號ヲ以テ定ムル所

十一月八日 宮内省  
宮内省官制ヲ補訂ス

明治二十二年七月宮内省達第十號宮内省官制中左ノ通改正ス  
但明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
一 第三十七條中「皇宮警部補判任六等」ノ九字及皇宮警部ノ項「五等以上」ノ四字ヲ削除ス  
一 第五十條宮内省判任官俸給表中警部警部補ノ二欄ヲ削除シ屬ノ次ニ「皇宮警部」ノ四字ヲ加フ  
一 同條宮内省准官俸給表中皇宮警察署ノ欄警手ノ俸給ヲ「自十一圓至二十圓」ニ改ム

十一月十三日 陸軍省  
神部署職員俸給規則ヲ補訂ス

明治三十五年四月内務省令第十二號神部署職員俸給規則中二號表ヲ左ノ通改正ス  
二號表

職名	年俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸	八級俸	九級俸
神部補	三百五十圓	三百二十圓	三百圓	二百八十圓	二百六十圓	二百四十圓	二百二十圓	二百圓	四百八十圓	

十一月十三日 陸軍省  
陸軍懲治除條例ヲ補訂ス

陸軍懲治除條例中左ノ通改正ス  
第十四條 懲治卒ノ衣、夏衣及外套ハ其ノ肩章ヲ除去ス但シ明治三十九年勅令第七十號附則第二項ニ依ル場合ニ於テハ衣ノ袖章ヲ除去ス

十一月十六日 關東都督府  
關東都督府農事試驗場規程

關東都督府農事試驗場規程  
第一條 關東都督府ニ農事試驗場ヲ置キ左ノ業務ヲ掌ラシム  
一 農産、畜産ノ改良増殖ニ關スル試驗  
二 模範農事ニ關スル事項  
三 種苗、蠶種、種卵、種畜等ノ配付ニ關スル事項

ヲ定ム

- 四 土壤、肥料、農産物等ノ分析ニ關スル事項
- 五 種苗肥料等ノ鑑定ニ關スル事項
- 六 農事巡回講話及講習ニ關スル事項
- 七 農具、農産物ノ標本陳列ニ關スル事項
- 第二條 農事試驗場ニ左ノ職員ヲ置キ民政部庶務課殖産係員ヲ以テ之ニ充ツ
  - 一場長 一人
  - 一助手 若干人
  - 一書記 若干人
- 第三條 場長ハ場中一切ノ事務ヲ掌理シ場員ヲ指揮監督ス
- 第四條 助手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス
- 第五條 書記ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務、會計ニ従事ス

十二月二十日 鐵道省  
統監府鐵道管理局職員官等ノ初級及陸絛方ヲ補訂ス

明治三十九年勅令第七十九號中「私設鐵道ノ事務ニ従事スル者ヲ統監府鐵道管理局ノ奏任文官ニ任用スル場合」ヲ「京釜鐵道株式會社ヨリ雇員トシテ統監府鐵道管理局ニ引繼採用シタル者ヲ同局ノ奏任文官ニ任用スル場合」ニ改ム

十二月廿一日 要港部  
要港部條

要港部條例中左ノ通改正ス  
第二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

本條例ハ三十五年十月八日勅令第二百一十一號ヲ以テ改ムル所

例ヲ補訂ス

- 第二條ノ二 要港部ニハ必要ニ應シ驅逐隊艇隊敷設隊ヲ置キ又潛水艇隊ヲ附屬セシム
  - 第九條ノ五 司令官ハ必要ニ應シ部下ノ敷設隊驅逐艦又ハ水雷艇ノ職員ヲ臨時部下ノ他ノ敷設隊驅逐艦又ハ水雷艇ニ配置スルコトヲ得
  - 第十一條 司令官ハ必要ニ應シ要港部附機關官軍醫官主計官兵曹長同相當官准士官下士卒ヲ部下ノ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置シ又ハ驅逐艦水雷艇ニ乗組マシムルコトヲ得
  - 第十三條ノ二第二項ヲ左ノ如ク改ム  
前項ノ外要港部ニ知港事ヲ置キ又必要ニ應シ要港部附トシテ機關官軍醫官及主計官ヲ置クコトヲ得
  - 第二十條 機關官ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置セラルルトキハ其ノ司令ノ指定ニ依リ其ノ隊ノ機關長驅逐艦長又ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス
  - 第二十二條 軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置セラルルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ又ハ其ノ指定ニ依リ驅逐艦長若ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス
  - 第二十四條 主計官ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置セラルルトキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ又ハ其ノ指定ニ依リ驅逐艦長若ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス
  - 第二十五條 削除
  - 第二十六條 削除
  - 第二十七條 要港部ニハ第三條及第十三條ノ二ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官准士官及下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
  - 第二十八條 削除
- 附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊條例ハ三十八年十二月十一日勅令第二百六十二號ヲ以テ改ムル所

十一月廿一日 水雷團條例 例ヲ改ム

- 第一條 水雷團條例 各軍港ニ水雷團ヲ置ク
- 第二條 水雷團ハ其ノ所在ノ地名ヲ冠稱ス
- 第三條 水雷團ハ當該鎮守府ニ屬シ驅逐隊艇隊敷設隊ヲ統轄ス
- 團長
- 副官
- 機關長
- 軍醫長
- 主計長
- 前項ノ外必要ニ應シ水雷團附トシテ機關官軍醫官及主計官ヲ置クコトヲ得
- 第四條 團長ハ鎮守府司令長官ニ隸シ部下ヲ統率訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ團務ヲ總理ス
- 第五條 團長ハ必要ニ應シ第三條第二項及第十六條ノ職員ヲ部下ノ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置シ又ハ驅逐艦水雷艇ニ乗組マシムルコトヲ得
- 第六條 團長ハ必要ニ應シ部下ノ敷設隊驅逐艦又ハ水雷艇ノ職員ヲ臨時部下ノ他ノ敷設隊驅逐艦又ハ水雷艇ニ配置スルコトヲ得
- 第七條 團長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ又ハ代理セシムルコトヲ得
- 第八條 團長缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス
- 第九條 副官ハ團長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 機關長ハ團長ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スルコトヲ掌ル  
 第十一條 水雷團附機關官ハ機關長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置セラルル  
 トキハ其ノ司令ノ指定ニ依リ其ノ隊ノ機關長驅逐艦長又ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス  
 第十二條 軍醫長ハ團長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スルコトヲ掌ル  
 第十三條 水雷團附軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置セラルルト  
 キハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ又ハ其ノ指定ニ依リ驅逐艦長若ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス  
 第十四條 主計長ハ團長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スルコトヲ掌ル  
 第十五條 水雷團附主計官ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス但シ驅逐隊艇隊敷設隊ニ配置セラルル  
 トキハ其ノ司令ノ命ヲ承ケ又ハ其ノ指定ニ依リ驅逐艦長若ハ艇長ノ命ヲ承ケ服務ス  
 第十六條 水雷團ニハ第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官准士官及下士卒ヲ置キ各  
 上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

驅逐隊艇隊條例

第一條 要港部及水雷團ニハ必要ニ應シ驅逐隊艇隊ヲ置ク

驅逐隊ハ驅逐艦二隻以上、艇隊ハ水雷艇二隻以上ヲ以テ編制ス

第二條 驅逐隊艇隊ニ各左ノ職員ヲ置ク

司令

機關長

前項ノ外必要ニ應シ驅逐隊附又ハ艇隊附トシテ將校同相當官兵曹長同相當官准士官及下士

驅逐隊條例ハ三十  
八年十二月十一日  
勅令第二百六十號  
ヲ以テ定ムル所

十一月廿一日

驅逐隊艇  
隊條例ヲ  
定メ驅逐  
隊條例ヲ  
廢ス

卒ヲ置クコトヲ得

第三條 司令ハ要港部司令官又ハ水雷團長ノ命ヲ承ケ驅逐隊又ハ艇隊ヲ指揮シ部下ヲ董督訓  
練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス

第四條 司令ハ第二條ニ掲クル職員及其ノ隊ニ配置セラレタル職員ノ乗組ムヘキ艦艇ヲ指定ス

第五條 司令ハ部下ノ職員缺員又ハ事故アルトキハ他ノ部下職員ヲシテ其ノ職務ヲ執行シ  
又ハ代理セシムルコトヲ得

第六條 司令缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス

第七條 驅逐隊司令ノ乗ル所ノ驅逐艦ヲ司令驅逐艦ト稱シ艇隊司令ノ乗ル所ノ水雷艇ヲ司令  
艇ト稱ス

第八條 機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スルコトヲ掌ル

第九條 第二條第二項ノ職員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 驅逐隊艇隊ニ編入中ノ驅逐艦水雷艇ニハ各別ニ海軍艦船條例第三十五條第三十五條  
ノ二第三十六條ノ職員ヲ置カスシテ一隊ヲ通シ驅逐隊又ハ艇隊職員トシテ之ヲ置クコトア  
ルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ司令其ノ配員ヲ掌ル

第十一條 艦隊其ノ他ニ驅逐隊艇隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ職員及職務ニ關シテハ本條例  
ヲ適用ス此場合ニ於テハ要港部司令官又ハ水雷團長ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ但シ會計經  
理ノ事務ハ本屬要港部又ハ水雷團ノ所掌トス

前項會計經理ノ事務ハ戰時事變等ノ場合ニ於テハ必要ニ應シ海軍大臣ノ指定スル艦團部隊  
等ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
驅逐隊條例ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

十一月廿一日 勅令

敷設隊條例  
例ヲ定ム

- 第一條 要港部及水雷團ニハ敷設隊ヲ置キ水雷防禦ノコトヲ掌ラシム
- 敷設隊ハ其ノ所在地名ヲ冠稱ス
- 第二條 敷設隊ニ左ノ職員ヲ置ク  
司令  
分隊長  
機關長
- 前項ノ外必要ニ應シ敷設隊附トシテ機關尉官軍醫及主計ヲ置クコトヲ得
- 第三條 司令ハ要港部司令官又ハ水雷團長ノ命ヲ承ケ敷設隊ヲ指揮シ部下ヲ董督訓練シ軍紀風紀ヲ維持シ兵備ヲ監理シ隊務ヲ掌理ス
- 第四條 司令缺員中又ハ事故アルトキハ所在部下ノ將校席次ノ順序ニ從ヒ其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 將校分隊長ハ司令ノ命ヲ承ケ各部署ノ長トナリ隊員ノ紀律ヲ維持シ分擔ノ防備ヲ整頓シ且教育訓練ニ關スルコトヲ掌ル
- 第六條 機關長ハ司令ノ命ヲ承ケ機關船體及兵器ニ關スルコトヲ掌ル
- 第七條 機關官分隊長ハ機關長ノ命ヲ承ケ隊員ノ紀律ヲ維持シ教育訓練ニ任シ又機關船體及兵器ニ關スルコトヲ掌ル
- 第八條 第二條第二項ニ掲クル職員ハ各上官ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第九條 第二條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官准士官及下士卒ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

- 第十條 戰時又ハ事變ノ際要港部又ハ水雷團所在地ノ外ニ設置スヘキ敷設隊ハ臨時要港部又ハ水雷團ニ於ケル敷設隊ヨリ之ヲ分置シ其ノ所在地名ヲ冠稱セシム
  - 前項ノ敷設隊ニ關スル事務ハ平時ニ在リテハ其ノ所轄要港部又ハ水雷團ニ於ケル敷設隊ニテ之ヲ處理ス
  - 第十一條 艦隊其ノ他ニ敷設隊ヲ附屬セシムルトキハ其ノ職員及職務ニ關シテハ本條例ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ要港部司令官又ハ水雷團長ノ職權ハ直屬長官之ヲ行フ但シ會計經理ノ事務ハ本屬要港部又ハ水雷團ノ所掌トス
  - 前項會計經理ノ事務ハ戰時事變等ノ場合ニ於テハ必要ニ應シ海軍大臣ノ指定スル艦團部隊等ヲシテ之ヲ掌ラシムルコトヲ得
- 附 則
- 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

十一月廿四日 勅令

統監府及  
理事廳巡  
査ノ任用  
及給與方  
ヲ補訂ス

十一月廿四日 勅令  
稅關官制  
ヲ補訂ス

稅關官制中左ノ通改正ス  
第四條中「二百八十四人」ヲ「三百十三人」ニ改ム

本官制ハ三十二年  
四月二十一日勅令  
第百六十一號ヲ以  
テ改ムル所

舊官制ハ三十七年五月二十四日勅令第百五十二號ヲ以テ定ムル所

十一月廿七日勅令  
煙草專賣局官制ヲ改ム

- 煙草專賣局官制
- 第一條 煙草專賣局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ煙草ノ耕作、検査、査定、收納、製造、販賣、輸入、輸出、試験、鑑定及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌ル
  - 第二條 煙草專賣局ハ之ヲ東京ニ置ク
  - 各地方ニ煙草收納所、煙草製造所及煙草販賣所ヲ置キ煙草專賣局ノ事務ヲ分掌セシム
  - 第三條 煙草專賣局ニ左ノ職員ヲ置ク
    - 局長 一人 勅任
    - 部長 三人 奏任内一人ハ勅任ト爲スコトヲ得
    - 主事 專任 五十人 奏任
    - 主事補 專任 三十人 奏任
    - 技師 專任 六十人 内一人ハ勅任ト爲スコトヲ得
    - 書記 專任 千八百六十四人 判任
    - 技手 專任 八百八十八人
  - 第四條 局長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
  - 第五條 部長ハ局長ノ指揮ヲ承ケ局務ヲ分掌ス
  - 第六條 主事及主事補ハ各部又ハ各所ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ掌ル
  - 第七條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル
  - 第八條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務又ハ検査ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス
  - 第九條 煙草專賣局ニ左ノ三部ヲ置ク
    - 事業部
    - 製造部
    - 計理部

計理部

- 製造部長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 各部事務ノ分掌ハ大藏大臣之ヲ定ム
- 第十條 煙草收納所ニ所長一人ヲ置キ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ
- 煙草製造所ニ所長一人ヲ置キ主事又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ
- 煙草販賣所ニ所長一人ヲ置キ主事、主事補又ハ書記ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十一條 煙草收納所長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ葉煙草ノ耕作、検査、査定、收納、輸入、輸出、試験、鑑定及專賣取締ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第十二條 煙草製造所長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ煙草ノ製造、製造煙草ノ販賣、輸入、輸出、検査、試験ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第十三條 煙草販賣所長ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ製造煙草ノ販賣、輸入、輸出、検査ニ關スル事務ヲ掌理ス
- 第十四條 大藏大臣ハ必要ト認ムル地ニ煙草專賣局、煙草收納所ノ出張所又ハ煙草專賣局、煙草製造所ノ分工場ヲ設クルコトヲ得
- 第十五條 煙草收納所、煙草製造所及煙草販賣所ノ名稱、位置並煙草收納所ノ管轄區域ハ別表ニ依ル

附則

本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際在職ノ煙草專賣局事務官、煙草專賣局事務官補、煙草專賣局屬ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ煙草專賣局事務官ハ同官等ノ煙草專賣局主事ニ、煙草專賣局事務官補ハ同官等ノ煙草專賣局主事補ニ、煙草專賣局屬ハ煙草專賣局書記ニ任セラレ其ノ現ニ受ク

明治三十九年十一月二十七日

ル俸給額ニ相當スル俸給ヲ受クルモノトス  
別表ノ一

煙草收納所名稱位置		名	稱	位	置
東京煙草收納所	東京府東京市				
水戸煙草收納所	茨城縣水戸市				
茂木煙草收納所	栃木縣芳賀郡茂木町				
三春煙草收納所	福島縣田村郡三春町				
小出雲煙草收納所	新潟縣中頸城郡新井町				
秦野煙草收納所	神奈川縣中郡秦野町				
名古屋煙草收納所	愛知縣名古屋				
大阪煙草收納所	大阪府大阪市				
高梁煙草收納所	岡山縣上房郡高梁町				
府中煙草收納所	廣島縣蘆品郡府中町				
池田煙草收納所	德島縣三好郡池田村				
熊本煙草收納所	熊本縣飽託郡黒髪村				
白杵煙草收納所	大分縣北海部郡白杵町				
出水煙草收納所	鹿児島縣出水郡上出水村				
鹿児島煙草收納所	鹿児島縣鹿児島市				

百六十

別表ノ二

煙草製造所名稱位置		名	稱	位	置
東京第一煙草製造所	東京府東京市				
東京第二煙草製造所	東京府東京市				
東京第三煙草製造所	東京府東京市				
高崎煙草製造所	群馬縣高崎市				
水戸煙草製造所	茨城縣水戸市				
茂木煙草製造所	栃木縣芳賀郡茂木町				
宇都宮煙草製造所	栃木縣宇都宮市				
郡山煙草製造所	福島縣安積郡郡山町				
仙臺煙草製造所	宮城縣仙臺市				
山形煙草製造所	山形縣山形市				
關原煙草製造所	新潟縣三島郡關原村				
秦野煙草製造所	神奈川縣中郡秦野町				
見付煙草製造所	靜岡縣磐田郡見付町				
名古屋煙草製造所	愛知縣名古屋				
金澤煙草製造所	石川縣金澤市				
彦根煙草製造所	滋賀縣犬上郡福滿村				

明治三十九年十一月二十七日

百六十一





茂木煙草收納所	茨城縣那珂郡内藤郷村
三春煙草收納所	福島縣郡山府
小出雲煙草收納所	山形縣酒田府
秦野煙草收納所	新潟縣長岡市
名古屋煙草收納所	愛知縣津島郡
大阪煙草收納所	大阪府大阪市
高梁煙草收納所	岡山縣高梁郡
府中煙草收納所	山梨縣府中市

本令ハ二十五年十一月十二日勅令第九十六號ヲ以テ定ムル所

十二月廿七日 勅令  
高等官官等俸給令  
ヲ補訂ス

池田煙草收納所	高知縣高知市
熊本煙草收納所	熊本縣熊本市
白杵煙草收納所	大分縣大分市
出水煙草收納所	鹿兒島縣出水郡
鹿兒島煙草收納所	鹿兒島縣鹿兒島市

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條中各省ノ部「煙草專賣局長」ヲ削リ「鐵道作業局長」ノ次ニ「煙草專賣局長」一級四千五百圓、二級三千五百圓、三級二千圓ヲ加ヘ「煙草專賣局書記官」ヲ削リ「函館稅關長」ノ次ニ「煙草專賣局部長」委任高等文官年俸第一號表ニ依リ「煙草專賣局事務官」ヲ「煙草專賣局主事」ニ、「煙草專賣局事務官補」ヲ「煙草專賣局主事補」ニ改ム

文武高等官官等表中大藏省ノ部「煙草專賣局長」ヲ削リ一等及二等ノ欄「大藏次官」ノ次ニ「煙草專賣局長」ヲ加ヘ「煙草專賣局書記官」ヲ削リ二等ノ欄「造幣局長」ノ次ニ「煙草專賣局部長」ヲ加ヘ「煙草專賣局事務官」ヲ「煙草專賣局主事」ニ、「煙草專賣局事務官補」ヲ「煙草專賣局主事補」ニ改ム

明治三十九年十一月二十七日

百六十六

高等文官官等相當俸給表中「煙草專賣局書記官」ヲ「煙草專賣局部長」ニ、「煙草專賣局事務官」ヲ「煙草專賣局主事」ニ、「煙草專賣局事務官補」ヲ「煙草專賣局主事補」ニ改ム

十二月廿七日 勅令第九十九號

稅務屬煙草專賣局屬樟腦事務局屬及鹽務局屬俸給最低額補訂シ方ヲ補訂シ煙草專賣局屬ヲ書記ニ改ム

明治三十一年勅令第三百十五號中左ノ通改正ス  
「煙草專賣局屬」ヲ「煙草專賣局書記」ニ改ム  
附 則  
本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

十二月廿七日 勅令第九十九號

煙草專賣局煙草製造所職員ノ手當及年功加俸給與方ヲ補訂ス

明治三十七年勅令第五百五十五號中左ノ通改正ス  
「煙草專賣局事務官」ヲ「煙草專賣局主事」ニ改ム  
附 則  
本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

十二月廿七日 勅令第九十九號

煙草專賣局職員特別任用令ヲ補訂ス

煙草專賣局職員特別任用令中左ノ通改正ス  
「煙草專賣局事務官」ヲ「煙草專賣局主事」ニ、「煙草專賣局事務官補」ヲ「煙草專賣局主事補」ニ、「專賣局屬」ヲ「煙草專賣局屬」ニ、「煙草專賣局屬」ヲ「煙草專賣局書記」ニ改ム  
附 則  
本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

十二月廿七日 勅令第九十九號

鹽務局職員特別任用令ヲ補訂ス

鹽務局職員特別任用令中左ノ通改正ス  
「煙草專賣局屬」ヲ「煙草專賣局書記」ニ改ム  
附 則  
本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

十二月廿八日 勅令第九十九號

高等官官等俸給令ヲ補訂ス

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス  
第九條中各省ノ部函館稅關長ノ項ヲ左ノ如ク改ム  
一級俸二千圓  
二級俸千八百圓  
三級俸千六百圓  
四級俸千四百圓  
函館稅關長  
附 則  
本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

十二月廿八日 勅令第九十九號  
製鐵所及

明治三十九年十一月二十七日至二十八日

百六十七

本令ハ三十七年五月二十四日勅令第五百五十九號ヲ以テ定ムル所

本令ハ三十八年三月三十日勅令第二百二十號ヲ以テ定ムル所

本令ハ二十五年十一月十二日勅令第九十六號ヲ以テ定ムル所

林區署ノ  
現業ニ從  
事スル判  
任官及雇  
員ノ勤勉  
手當給與  
方ヲ定ム

製鐵所ノ現業及林區署ノ伐木、造材、運材又ハ製材ノ現業ニ從事スル判任官及雇員ニハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依リ勤勉手當ヲ給スルコトヲ得

十一月卅日 勅令

滿韓在勤  
文官加俸  
令ヲ定ム

滿韓在勤文官加俸令

第一條 滿韓在勤文官ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給ス

第二條 統監及關東都督ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五トシ其ノ他ノ高等官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ

五以內、判任官ノ加俸ハ十分ノ八以內トシ其ノ額ハ本屬長官之ヲ定ム但シ六級俸以下ノ判

任官ノ加俸ハ三十圓迄ヲ支給スルコトヲ得

第三條 加俸ノ支給ニ付テハ本俸ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 本令ハ在外公館職員及陸海軍軍屬ニハ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ滿洲在勤文官ニ付テハ發布ノ日ヨリ、韓國在勤文官ニ付テハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

滿韓在勤文官ノ加俸、在勤俸及交際手當以外ノ手當ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

韓國在勤文官ニシテ其ノ受クヘキ本俸及加俸ノ總額カ本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ現ニ受

クル本俸及加俸、在勤俸又ハ交際手當以外ノ手當ノ總額ヨリ少キモノニハ明治四十二年度限

リ手當トシテ其ノ差額ヲ支給ス

本條例ハ二十六年  
十月三十日勅令第  
百七十一號ヲ以テ  
定ムル所

十一月卅日 勅令  
在外公館  
費用條例  
ヲ補訂ス

在外公館費用條例中左ノ通改正ス

第五條第四項中「命令到達ノ日」ヲ「發令ノ翌日」ニ改ム

第九條ノ二 在勤俸ハ在外公館職員カ休暇中其ノ任地ヲ離レタル場合ト雖外務大臣ノ定ムル

期間仍之ヲ支給スルコトヲ得第六條ノ増給ヲ受クル者ノ妻カ病氣又ハ夫ノ病氣看護ノ爲任

地ヲ離レタル場合ニ於テ其ノ増給ニ付亦同シ

本官制ハ三十五年  
十月三十一日勅令  
第二百四十二號ヲ  
以テ定ムル所

十二月一日 勅令  
稅務署官  
制ヲ補訂  
ス

稅務署官制中左ノ通改正ス

別表中札幌稅務監督局北海道廳ノ部上川、室蘭ノ項ヲ左ノ如ク改ム

上	上川郡(天鹽國) 空知郡ノ内富良野村 上川郡(石狩國)
室	中川郡(天鹽國) 勇拂郡ノ内占冠村
蘭	室蘭郡 有珠郡 虻田郡 幌別郡 勇拂郡
白	白老郡

長野稅務監督局長野縣ノ部「鹽崎」ヲ「屋代」ニ改ム

本規則ハ二十五年  
二月二日勅令十四  
號ヲ以テ定ムル所

十二月四日 勅令

外國在勤  
警部巡查  
任用及支  
給規則ヲ  
補訂ス

外國在勤警部巡查任用及支給規則中左ノ通改正ス

第八條第一項中「外國在勤警部ノ月俸ハ明治二十四年勅令第八十三號判任官俸給令ニ依ル」ヲ

「外國在勤警部ノ月俸ニ付テハ判任官俸給令ニ依リ外國在勤巡查ノ月俸ニ付テハ巡查給與令

ニ依ル」ニ改メ同第二項ヲ削ル

第九條第二項中「一箇月二圓」ヲ「一箇月十五圓以內」ニ改ム

十二月八日 勅令

海軍造兵  
生徒條例

明治三十九年十一月三十日至十二月八日

ヲ補訂シ  
海軍造船  
生徒及造  
兵生徒條  
例ニ改ム

海軍造兵生徒條例中左ノ通改正ス  
「海軍造兵生徒」ヲ「海軍造船生徒及造兵生徒」ニ、「東京工業學校」ヲ「官立高等工業學校」ニ改ム

十二月八日  
海軍造船  
工練習所  
條例ヲ廢  
ス

海軍造船工練習所條例ハ明治四十年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

十二月八日  
海軍給與  
令ヲ補訂  
ス

海軍給與令中左ノ通改正ス  
第四十四條及第四十九條中「造兵生徒」ヲ「造船生徒及造兵生徒」ニ改ム  
第八十九條中「水雷艇」ノ下ニ、「潜水艇及淺吃水砲艦」ヲ加フ  
第七表官職別ノ欄中「大尉艦艇長」ヲ「大尉艦艇長ニ、大軍艦艇長ヲ機關大尉艦艇長ニ、末欄第二號中「大尉ニハ六十八錢、驅逐隊軍醫長タル大軍醫及同主計長タル大主計」ヲ「大尉及驅逐隊機關長タル機關少佐ニハ六十八錢機關大尉」ニ改メ第四號中「艦艇長」ノ下ニ「若ハ機關長」ヲ加ヘ第五號中但書ヲ削ル

十二月九日  
關東都督  
府通信書

關東都督府通信書記補特別任用ニ關スル試驗規則中左ノ通改正ス  
第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第十三條 左ノ資格ノ一ヲ有スル者ハ特ニ試驗ヲ須キス關東都督府文官普通試驗委員ノ銜衡

記補特別  
任用ニ關  
スル試驗  
規則ヲ補  
訂ス

ヲ經テ直ニ通信書記補ニ任用スルコトヲ得  
一 官立公立尋常中學校三學年以上ノ修業證書ヲ有スル者及之ト同等以上ト認ムル官立公立私立學校又ハ司法省指定法律學校ノ卒業證書ヲ有スル者  
二 官立公立學校ノ教員タルヘキ免許狀ヲ有スル者  
三 陸海軍現役滿期ノ下士以上及陸軍上等兵又ハ之ト相當ノモノニシテ下士適任證書ヲ有スル者  
四 判任文官ノ職ニ在リタル者  
五 滿二年以上ニ遞信省通信局、經理局、通信官署、臺灣總督府通信官署、統監府通信官署及關東都督府郵便電信局ノ雇ヲ現ニ勤績スル者並相互ヲ通シテ滿二年以上雇ヲ勤績シ現ニ其ノ職ニ在ル者  
六 滿五年以上巡查ノ職ニ在リタル者  
附則第二項ヲ削ル

十二月十日  
廳府縣屠  
畜検査技  
師技手ノ  
休職方ヲ  
定ム

廳府縣屠畜検査技師技手ノ休職ニ關シテハ明治三十七年勅令第百十一號ノ規定ヲ準用ス

十二月十五日  
統監府及

統監府及理事廳巡查ノ在勤手當ニ關スル件左ノ通定ム  
統監府及理事廳巡查ノ在勤手當ノ月額ハ月俸ニ同シ但シ月俸十五圓以下ノ者ニハ十五圓ヲ給

本條例ハ三十年九月三日勅令第三百二十五號ヲ以テ定ムル所

本令ハ三十七年一月二十一日勅令第六號ヲ以テ定ムル所

本規則ハ本年九月一日關東都督府令第十五號ヲ以テ定ムル所

理事廳巡  
査ノ在勤  
手當ヲ定  
ム

ス  
附 則  
本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ受クル在勤手當ハ之ヲ減額セス

十二月十六日  
東宮御所  
御造營局  
官制ヲ廢  
ス

明治三十一年宮内省達東宮御所御造營局官制ハ明治三十九年十二月三十一日限り之ヲ廢止シ  
其ノ殘務ハ内匠寮ニ於テ掌理ス

十二月十六日  
在外指定  
學校職員  
俸給額規  
則ヲ定メ  
舊制ヲ廢  
ス

在外指定學校職員俸給額規則  
第一條 小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ職員ノ月俸ハ  
第一號表ニ依ル但シ月俸三十圓未滿ノ者ニ限り級俸ニ拘ラス適宜ノ金額ヲ定メ之ヲ支給ス  
ルコトヲ得  
第二條 小學校若ハ實業補習學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ學校長又ハ訓  
導ニシテ一級俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次月俸百圓迄増スコトヲ得  
第三條 中學校、高等女學校若ハ實業學校ノ學科ヲ授クル學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ職員  
ノ月俸ハ第二號表ニ依ル  
第四條 中學校、高等女學校若ハ實業學校ノ職員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ  
年俸ハ第三號表ニ依ル  
附 則

第五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 現ニ本令ニ規定スル俸給額ニ相當セサル俸給ヲ受クル者ハ當分ノ内現在ノ儘支給ス  
ルコトヲ得但シ其ノ者ノ取扱ニ關シテハ其ノ俸給ニ最近キ上級ノ俸給ヲ受クルモノト看做  
ス

第七條 明治三十九年八月統監府令第二十九號ハ之ヲ廢止ス

第一號表

職名	級	俸給額
學校長	一級	七十五圓六十圓
	二級	六十圓五十圓
	三級	五十圓四十圓
	四級	四十圓三十圓
	五級	三十圓二十圓
	六級	二十圓十圓
	七級	十圓
	八級	五圓
	九級	三圓
	十級	二圓

第二號表

職名	級	俸給額
學校長	一級	百圓八十圓
	二級	八十圓七十圓
	三級	七十圓六十圓
	四級	六十圓五十圓
	五級	五十圓四十圓
	六級	四十圓三十圓
	七級	三十圓二十圓
	八級	二十圓十圓
	九級	十圓
	十級	五圓

第三號表

職名	級	俸給額
學校長	一級	二千二百圓
	二級	一千八百圓
	三級	一千四百圓
	四級	一千二百圓
	五級	一千圓
	六級	八百圓
	七級	六百圓
	八級	四百圓
	九級	三百圓
	十級	二百圓

十二月十六日

在外指定學校職員手當及舍宅ニ屬スル件左ノ通定ム

在外指定  
學校職員  
手當給與  
方ヲ定ム

第一條 在外指定學校職員ニハ俸給ノ外手當及舍宅ヲ給ス但シ舍宅ハ當分ノ内含宅料ヲ給シ  
テ之ニ代フルコトヲ得  
第二條 手當ノ額ハ俸給ノ十分ノ三以上舍宅料ノ額ハ五圓以上ニ於テ居留民團又ハ學校設立  
者若ハ其ノ代表者ニ於テ之ヲ定メ理事官ノ認可ヲ受クヘシ  
附 則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ明治四十年三月三十一日ヲ限リ明治三十九年ハ統監府令  
第三十號ノ規定ニ依ルコトヲ得

十二月十九日  
關東都督  
府巡查看  
守手當支  
給規則ヲ  
補訂ス

明治三十九年九月府令第二十一號關東都督府巡查看守手當支給規則中別表ヲ左ノ通改正ス  
本令ハ明治三十九年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

關東都督府巡查看守手當月額表

職 名	關 東 州		關 東 州 內 教 習 中
	外	內	
巡 査 守	公主嶺警務署管内	奉天警務署管内	大石橋警務署管内
	二十圓	十八圓	十七圓
			十五圓
			八圓

十二月二十日  
關東都督  
府巡查看  
守任用及  
給與方ヲ  
補訂ス

明治三十九年勅令第二百三十一號中左ノ通改正ス  
第二條 關東都督府巡查看守ノ俸給ニ關シテハ巡查給與令、奏任及判任待遇監獄職員給與令  
ニ依ル

十二月廿二日  
滿韓在勤  
文官加俸  
令ニ依リ

老鐵山、老虎尾、  
白玉山及南三山島  
燈臺在勤  
官吏ニ支  
給スル加  
俸額ヲ定  
ム

明治三十九年勅令第三百六號滿韓在勤文官加俸令ニ依リ清國老鐵山、老虎尾、白玉山及南三山  
島燈臺在勤官吏ニ支給スル加俸額左ノ通相定ム

種 別	加俸月額
看 守	俸給月額三十圓以上ノ者 本俸十分ノ七
同	俸給月額三十圓未滿ノ者 二 十 圓

十二月廿四日  
東宮御所  
御造營ノ  
殘務ニ從  
事セシム  
ル爲臨時  
内匠寮ニ  
技師ヲ置  
ク

東宮御所御造營ノ殘務ニ從事セシムル爲臨時内匠寮ニ技師二人ヲ置ク

明治三十九年十二月二十八日

百七十六

本官制ハ三十二年六月十四日勅令第二百六十三號ヲ以テ定ムル所

十二月廿八日 海軍局官制ヲ補訂ス

海軍局官制中左ノ通改正ス

第四條 各海軍局ヲ通シテ左ノ職員ヲ置ク

局長 四人 奏任

事務官 專任五人 奏任

技師 專任三十人

書記 專任三十人 判任

技手 專任三十四人

第六條 事務官ハ海務署長タル者ノ外各海軍局ニ分屬シ局長ノ事務ヲ助ク

第八條 海軍局高等官ハ臨時命ヲ承ケ遞信省管船局ノ事務ヲ助ク

第九條 海務署ニ署長ヲ置キ事務官技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ

附 則

本令ハ明治四十年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本官制ハ二十六年十月三十日勅令第五百五十四號ヲ以テ改ムル所

十二月廿八日 航路標識管理所官制ヲ補訂ス

航路標識管理所官制中左ノ通改正ス

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

滿三年以上高等官三等ニ在リテ功績顯著ナルモノハ高等官二等ニ陞敘スルコトヲ得

十二月廿八日 高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第九條第一項中各省ノ部「一等郵便局長」ノ「海軍局長」ヲ加ヘ通信事務官ノ次「海軍局長」ヲ削リ「海軍官」ヲ「海軍局事務官」ニ改ム

十二月廿八日 高等官官等俸給令

ヲ補訂ス

文武高等官官等表中遞信省ノ部三等ノ欄ニ「海軍局長」ヲ加ヘ八等ノ欄「海軍局長」ヲ削リ四等乃至八等ノ欄「海軍官」ヲ「海軍局事務官」ニ改ム

高等文官官等相當俸給表中「一等郵便局長」ノ次ニ「海軍局長」ヲ加ヘ「通信事務官」ノ次「海軍局長」ヲ「海軍局事務官」ニ改メ「高等海員審判所審判官」「高等海員審判所理事官」「地方海員審判所審判官」「地方海員審判所理事官」ヲ削ル

附 則

本令ハ明治四十年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

十二月廿八日 兼任海員審判所高等官ノ官等ヲ定ム

兼任海員審判所高等官ノ官等ハ各其ノ本官ノ官等ニ依ルモノトス

十二月廿八日 海軍局事務官特別任用令

海軍局事務官ハ海軍官ノ職ニ在リタル者又ハ滿三年以上遞信省管船局海軍局海務署ノ事務ニ従事シ現ニ判任官三級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ヨリ文官高等試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第二百六十九號ハ之ヲ廢止ス

前項勅令ノ規定ニ依リ任用セラレタル海軍局長ハ滿五年以上高等官四等ニ在職シ功績アル者ニ非サレハ高等官三等ニ陞敘スルコトヲ得ス

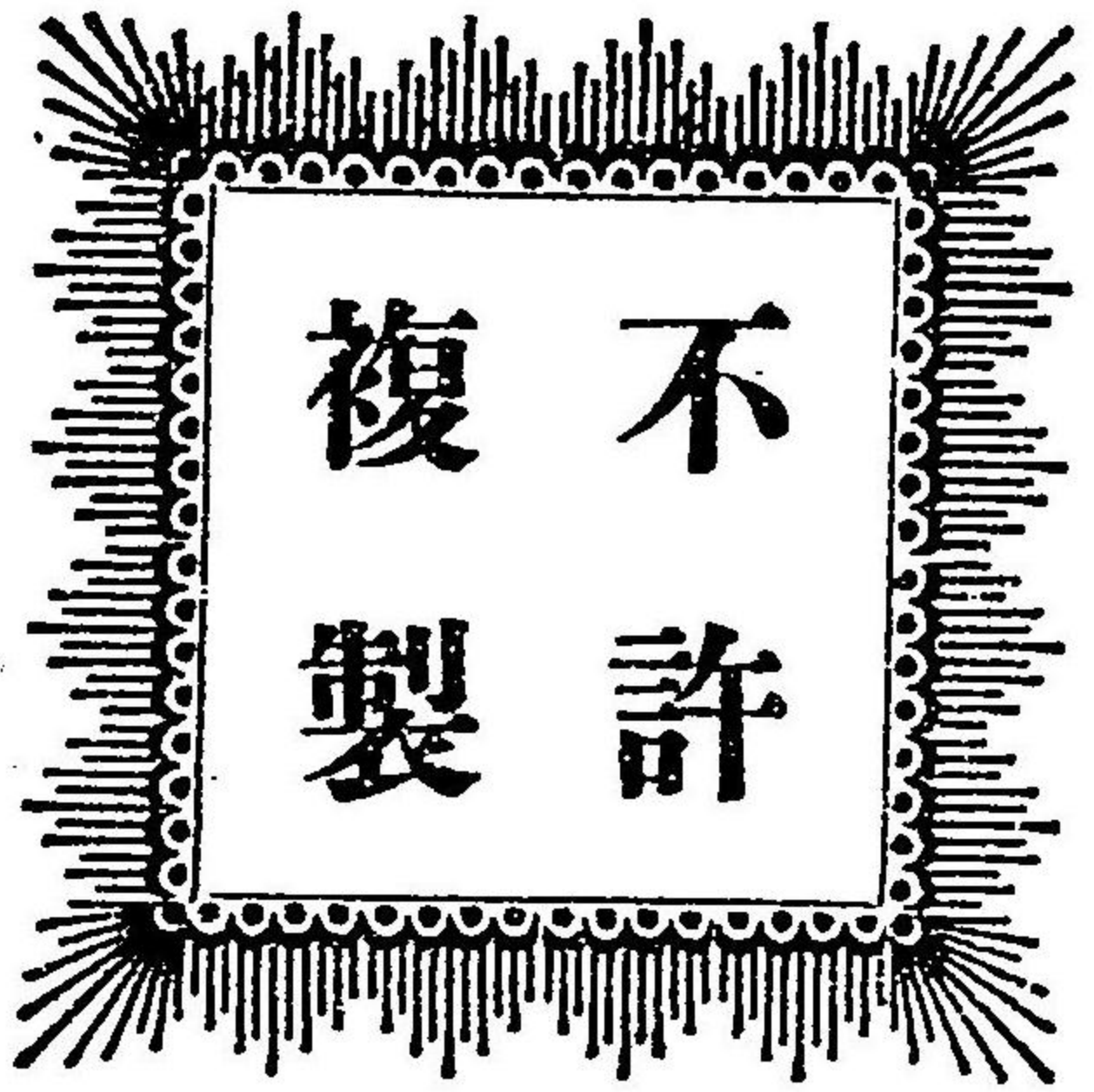
十二月廿八日 定メ海軍局長任用方ヲ廢ス

明治三十九年十二月二十八日

百七十七



明治四十年十月十日印刷  
明治四十年十月十三日發行



不許  
複製

# 內閣書記官室記錄課

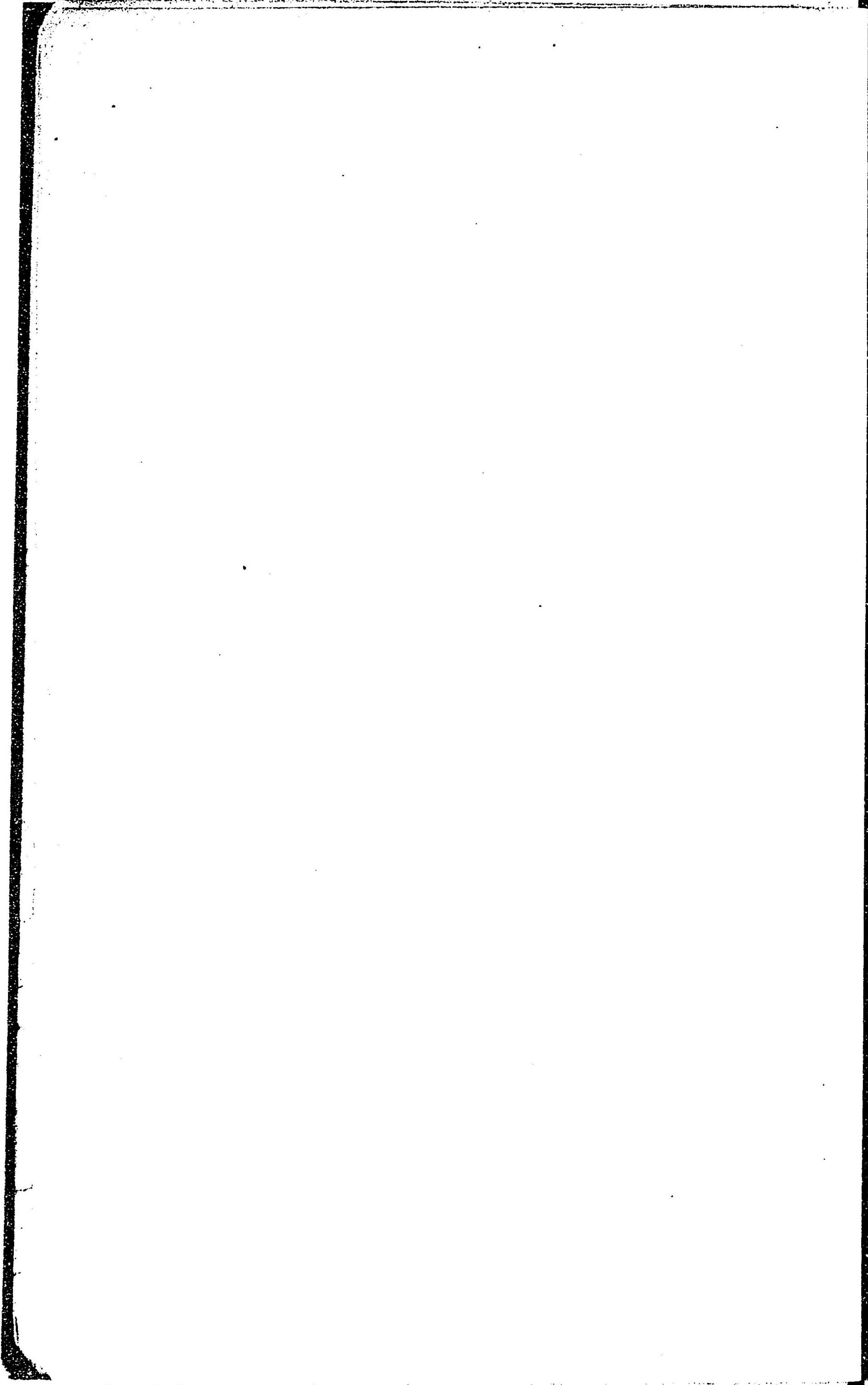
發行  
者兼  
印刷者

東京市神田區裏神保町一番地  
龜井忠一

## 發行所

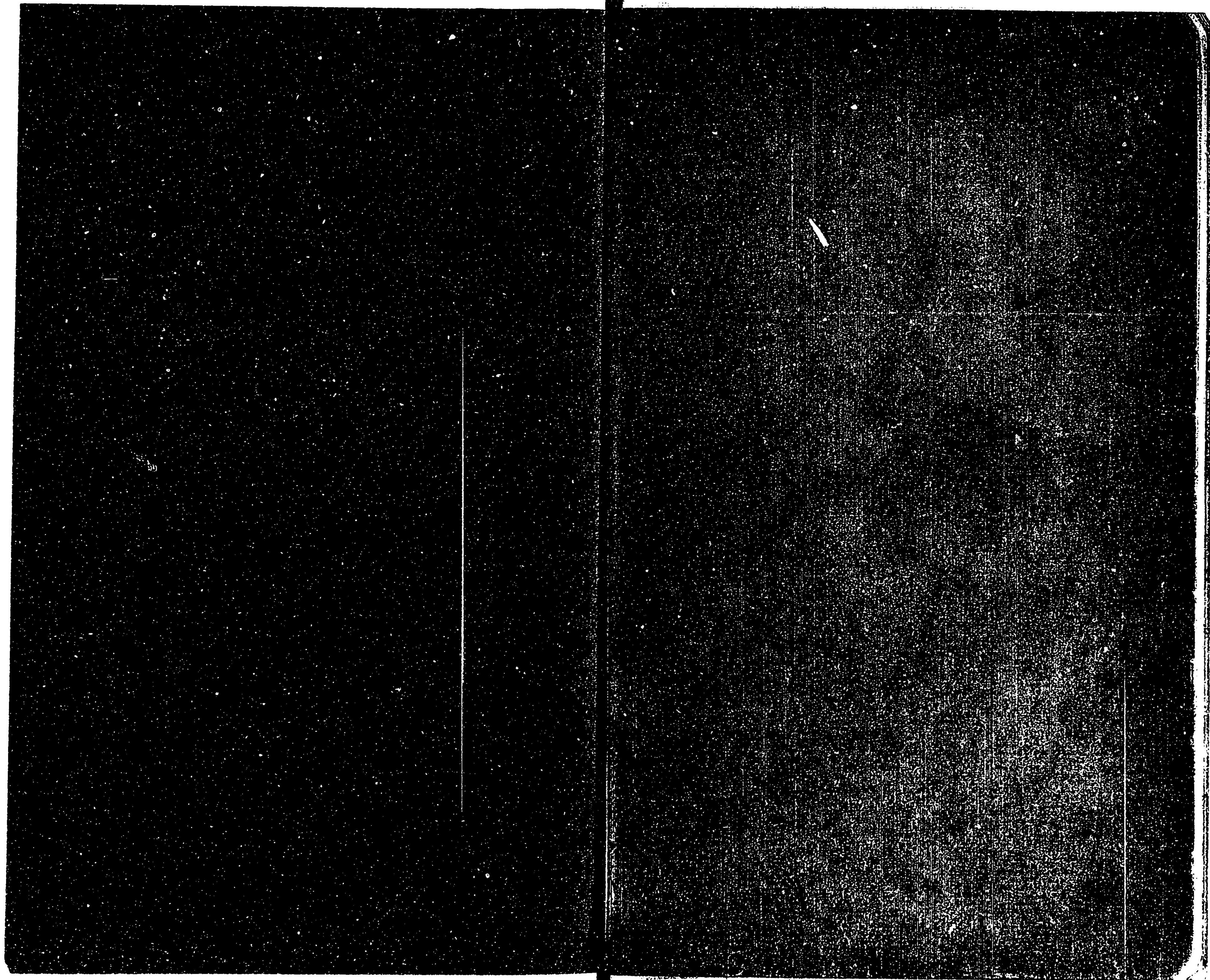
電話一七三三  
三三三三  
振替貯金口座一五九九七

東京市神田區裏神保町一番地  
三省堂書店

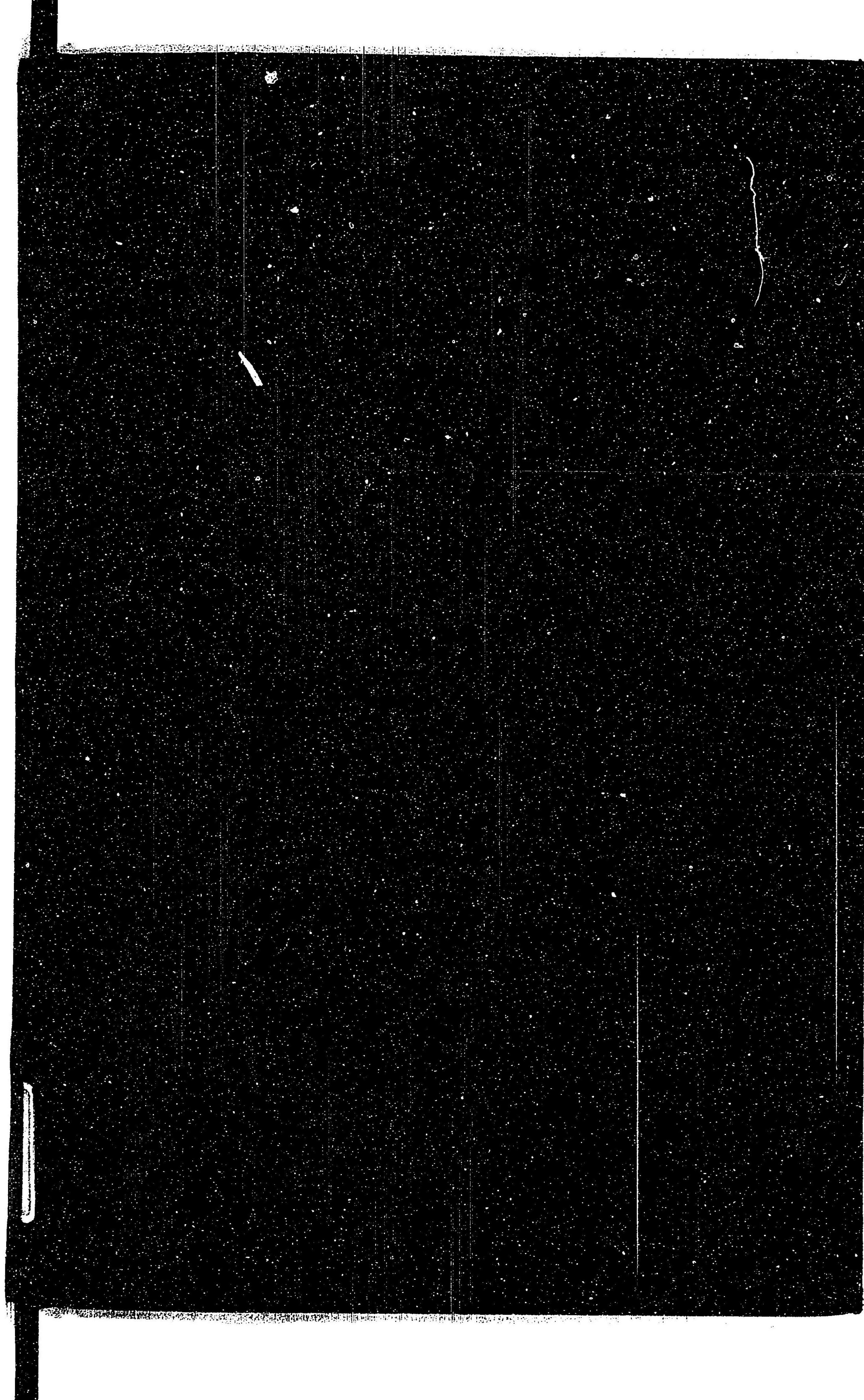


此書係由上海商務印書館出版  
民國二十一年三月一日發行  
每冊售價大洋一元二角  
總發行所：上海商務印書館  
地址：上海南京路

147
57



47  
51





028928-000-0

14.7-51

明治職官表

内閣書記官室記録課/編

M40

BAC-0133

